各委員会・部会のあゆみ

- 総務委員会
- 競技委員会
- 競泳委員会
- 水球委員会
- 飛込委員会
- シンクロ委員会
- 地域指導者委員会
- 医科学委員会
- 情報処理委員会
- オープンウォーター委員会
- ジュニア部会
- マスターズ部会
- 高体連水泳専門部委員会（高等学校部会）
- 群馬県中体連水泳部（中学校部会）
- 群馬県小学校体育研究会（小学校部会）

〈その他団体〉

- 群馬障害者水泳協会

総務委員会

所轄事項　1. 連盟全般の運営連絡等に関する事務事項
2. 財務に関する事項　3. 登録に関する事項　4. 施設に関する事項
5. 広報・表彰に関する事項　6. その他

役員

委員長　田中　信宏（理事長）
副委員長　高井　孝雄（副理事長）　小茂田　猛（副理事長）
滋野　文夫（副理事長）
委員　五十嵐源一　金子　雅人　平田　明仁　高橋光太郎
嶋田　英一　犬塚　均

沿革

本県水泳連盟の場合理事長が総務委員長として業務に関わる事が慣例となっているようである。私の知る限りでは松浦巌氏、池谷君夫氏、蛭間利雄氏、木村利雄氏、高橋秀雄氏、蛭間利雄氏、山田稔氏と引き継がれ、平成21年度の任期改選で前理事長山田氏の副会長就任に伴い競泳委員長から理事長（総務委員長）へと田中信宏氏の任務が変わった。

総務の主な業務は、群馬県水泳連盟が対外的に行う行事として、日本水泳連盟地域会議（8年に一回）、北関東水泳競技大会及び三県水泳競技大会の開催（3年に一回）、その他関東ブロック国体予選等輪番制の行事がある。毎年の仕事としては国体・三県・北関東大会の選手選考及び派遣申請等の送付、各種受賞者の決定・推薦、群馬県水泳連盟総会開催（任期改選期には年2回）、各都県での行事（周年、叙勲、祝賀会等）への出席等が有る。しかしながら一番大変な仕事は毎日届く郵便物の処理（関係各所への分別及び送付）である。

活動報告

この10年間で総務委員会が関わった本県水泳連盟の行事をあげてみる。

（関東地区）

平成19年度関東地域春季水泳競技大会、平成21年度ＪＯ夏期予選会（シンクロ・飛込）、平成22年度国民体育大会関東ブロック大会、平成23年度関東中学校水泳競技大会・ＪＯ夏期予選会（シンクロ・飛込・水球）、平成24年度日本水泳連盟地域会議・平成24年度関東高等学校選手権水泳競技大会、平成25年度北関東ジュニアブロック合宿、平成26年度関東地域春季水球競技大会・関東普及委員長会議、平成27年度関東地域春季水泳競技大会等が有る。関東地域春季水泳競技大会は、平成27年度群馬大会を最後に中止の決定が、関東水泳連絡協議会会議にて裁決された。

高崎：2012日本水泳連盟地域会議

（その他）

北関東水泳競技大会（平成19年・平成22年・平成25年）開催、北関東大会についても関東地域春季水泳競技大会同様大会開催当時の目的達成及び諸般の事情から大会開催の有無が論議されていたが、平成27年第58回栃木大会の各県代表者会議にて従来の北関東大会中止が決定。しかし、大会名及び開催回数はそのまま継続し、4月最終日曜日会場を栃木県とし開催する事も決定した。来年度からの北関東大会については、関係者で内容を検討する事となっている。三県対抗として、58年間続いた伝統ある大会も栃木大会を最後に終わりを告げた。群馬・長野・山梨三県対抗水泳競技大会（平成21年・平成24年・平成27年）を開催する。

将来の展望

本県の水泳競技力は右肩下がりの現状が続いている。この現状から抜け出るために群馬県水泳連盟は一丸となり取り組まなければならない。2020年の東京オリンピック開催に合わせ次の3つの課題解決を柱に魅力有る連盟運営、実のある競技会運営そして競技力の強化に取り組めるように努力したいと考えている。一つ目の柱が施設面の充実である。全国規模の競技会を実施できる50m室内プールの建設、老朽化の激しい飛び込みプールの新設及び補修や室内への取り込み等である。二つ目の柱は競技人口の増加である。特に水球、飛込、シンクロについては、ジュニア層の競技人口の増加が急務である。三つ目はここ数年低下し続ける競技力をいかに右肩上がりに修正するかである。

オリンピック開催が東京に決定したことは、日本水泳界はもとより本県にとっても3つの課題解決の絶好の機会でもある。まず一つ目の課題の解決に向けては、オリンピックチームの事前合宿や直前合宿の誘致、群馬二巡目国体の開催を視野に入れ施設設備の充実を図りたい。二つ目の課題については東京オリンピック開催決定により社会全体のスポーツ熱が上がる中、クラブチーム（群馬ジュニア水球・群馬ダイビング・敷島シンクロ）の指導体制の充実をはかり魅力あるクラブ運営のもと、少しでもジュニア層の競技人口増加につなげたい。三つ目の課題については、国際レベルの選手及び国際感覚を身につけた選手育成を目的に17年前より始めた海外派遣事業、年間を通じ実施される国内強化合宿、群馬県スポーツ協会の事業である拠点活用強化事業、関ブロ通過プロジェクト、スーパーキッズプロジェクト、オリパラ選手支援事業等の強化事業を今まで以上に充実させ本県水泳競技力の向上につなげていきたい。

以上総務委員会として競技会運営、強化指導、連盟の運営等新しい風を入れ本県水泳連盟の充実及び競技力の向上のお手伝いが出来たらと強く願っている。

2012韓国（済州島）海外合宿

競技委員会

所轄事項
1. 競技会の企画と運営に関する事項
2. 競技役員に関する事項
3. 記録編集に関する事項
4. その他

役員

委員長	須藤　文治（桐生水協）	
副委員長	喜多　正義（前橋水協）	永山　昌昭（伊勢崎水協）
委員	飯野　統世（桐生水協）	萩原　信行（藤岡水協）
	中島　善孝（高崎水協）	松田　叔子（前橋水協）
	櫻井三枝子（前橋水協）	加藤　由美（桐生水協）
	秋山　浩一（高崎水協）	佐藤　卓也（前橋水協）
	皆瀬千恵美（安中水協）	猿谷　　宝（高崎水協）
	白岩　　淳（高崎水協）	三吉　　学（Jr 委員会）
	海老澤友紀（Jr 委員会）	高橋光太郎（Jr 委員会）
	轟木　重利（県高体連）	犬塚　　均（県中体連）
	髙橋　睦聖（県中体連）	関　宗一郎（県中体連）

沿革

過去10年間の競技委員長は、現副理事長の高井孝雄氏と須藤文治である。なお、高井氏が20年余り競技委員長を務めてきていたが、体調を崩してしまったため当時副委員長の須藤文治が引き継ぐことになった。なお、高井氏の前の競技委員長は、現参与の児島充之氏が務めていた。

現在、競技委員会の開催場所は敷島公園水泳場の競技運営室が中心になっているが、過去には伊勢崎女子高での開催や高井孝雄氏の自宅、県民大会では各担当市の会議室でプログラムを作成してきた。

その後、64回（平成8年）山梨県インターハイ開催における準備で、競技運営システム（SWMSYS）が開発され群馬県は平成9年度より競技会に採用した。当時は競技委員長が情報委員長を兼務していたので、その経過は情報処理委員会のページで報告されているので参照されたい。

平成22年度に（公財）日本水泳連盟が公認審判員制度を改訂したことにより、本県でも従来の競技役員上級、1種、2種から公認審判員A級、B級、C級とした。

競技施設面では、競技規則の改訂に伴い平成21年度よりスタート台の傾斜角度を7．5度から10度に修正した。同年度より日本選手権でバックプレート付きのスタート台が初めて使用されるようになった。

競技会への参加費では平成24年度より700円から800円への改訂を行い、競技場の施設、備品の破損への対応として施設賠責補償保険費を1人100円徴収し対応することになった。さらに、平成26年度より敷島公園水泳場での競技会では、事前の会場準備、競技会終了後の会場の後片付け、スタート台等の撤去を水泳場関係者に必要経費を支払って依頼することができるようになった。

事業内容

競技委員会の主な業務は、所轄事項で上げた競技会の企画と運営が中心となるが、競技会の企画するためには、各種団体の競技会日程の調整から始めなくてはならない。各種団体とは、群馬県水泳連盟、高体連水泳専門部、中体連水泳専門部、ジュニア委員会、小体研水泳委員会、群馬大学水泳部、高崎経済大学水泳部、群馬県スポーツ振興事業団、群馬県障害者スポーツ協会等である。これらの団体の競技実施希望日程を調整し、敷島水泳場、大渡温水プール、ふれあいスポーツプラザでの開催日程を決めていくことも競技委員会の業務内容として上げられる。

また、これらの団体の競技会要項を取りまとめて、100ページ余りに及ぶ競技会要項集の作成も毎年の業務となっている。

次に、競技会運営の事前準備として欠かせない調査や依頼内容がいくつか上げられる。まずは競技運営に携わる競技役員の参加確認調査を年に4回ほど行い、封書による調査を毎回60通程度発送すると同時にインターネットによるウェブ回答調査で100名以上の回答処理を行っている。この調査結果でそれぞれの競技会での役員編成を行い、プログラムの資料として参加競技役員への委嘱状の送付を行っている。また、依頼内容としては、施設賠責保険への加入と駐車場整理のためのシルバー人材への依頼、印刷屋へのプログラム作成の依頼、借用競技場との事前連絡、打合せ等が上げられる。さらに、選手、役員の傷害保険料の関係で参加人数の報告等も該当保険会社に行っている。

活動報告

県内で実施してきた県水連主管の主な競技会についての実情及び活動内容を以下に報告する。

関東地域春季水泳競技会大会は、50回を数える競技会となり群馬県水泳連盟の主催、主管で実施した。参加者数は例年より減ったが、931名の選手が関東各都県から集い、大会新記録が12と活気ある競技会となった。なお、この競技会にはオリンピックで銀メダリストとなった萩野公介選手の大会記録も残っている。ただ、諸般の事情で平成27年度の開催を最後に50回までで終了することになった。

北関東水泳競技大会群馬県予選会は、平成27年度で58回を数える歴史ある競技会だが、この競技会は群馬県、栃木県、茨城県の3県で学童の部と一般の部の選手が参加し、3県の対抗競技として実施されてきたが、それぞれの県の事情で対抗競技としての形態を変え、平成28年度からは栃木県水泳連盟が主催、主管となって実施することになった。なお、対抗競技の最後となった平成27年は、男女総合優勝と学童男子総合優勝は群馬県となり、それぞれの優勝カップは敷島水泳場に保管してある。

北関東大会大会記録一覧

男子（学童）

平成２７年５月３１日現在

種目	距離	記録	期日	新記録保持者	所属	会　　場
自由形	50m	26. 89	2009/ 5/31	天田　雄大	群馬県Ａ（リレー）	栃木県立温水プール館
自由形	100m	59. 21	2009/ 5/31	井田　悠斗	群馬県	栃木県立温水プール館
自由形	200m	2：10. 59	2004/ 6/ 6	加藤　浩平	茨城県	群馬県敷島公園水泳場
背泳ぎ	50m	29. 46	2006/ 6/ 4	萩野　公介	栃木県	栃木県立温水プール館
背泳ぎ	100m	1：03. 40	2006/ 6/ 4	萩野　公介	栃木県	栃木県立温水プール館
平泳ぎ	50m	34. 32	2000/ 5/21	森田　直樹	群馬県	栃木県体育館屋内プール
平泳ぎ	100m	1：12. 62	2000/ 5/21	森田　直樹	群馬県	栃木県体育館屋内プール
バタフライ	50m	28. 14	2009/ 5/31	天田　雄大	群馬県	栃木県立温水プール館
バタフライ	100m	1：02. 15	2009/ 5/31	天田　雄大	群馬県	栃木県立温水プール館
個人メドレー	200m	2：16. 54	2009/ 5/31	天田　雄大	群馬県	栃木県立温水プール館
リレー	200m	1：52. 02	2006/ 6/ 4	栃木県	栃木県	栃木県立温水プール館
メドレーリレー	200m	2：03. 28	2009/ 5/31	三井・山崎・天田・井田	群馬県Ａ	栃木県立温水プール館

女子（学童）

種目	距離	記録	期日	新記録保持者	所属	会　　場
自由形	50m	28. 09	2009/ 5/31	岸本　梨沙	栃木県	栃木県立温水プール館
自由形	100m	1：01. 31	1995/ 5/21	佐藤美和江	栃木県	前橋大渡温水プール
自由形	200m	2：10. 76	2010/ 5/30	栃村かれん	栃木県	群馬県敷島公園水泳場
背泳ぎ	50m	30. 56	2001/ 5/27	大垣　苑子	栃木県	前橋大渡温水プール
背泳ぎ	100m	1：05. 88	1995/ 5/21	鎌田　有美	栃木県	前橋大渡温水プール
平泳ぎ	50m	34. 60	2007/ 6/ 3	植木　　彩	群馬県	群馬県敷島公園水泳場
平泳ぎ	100m	1：14. 42	1995/ 5/21	村岡奈緒美	群馬県	前橋大渡温水プール
バタフライ	50m	30. 07	2009/ 5/31	神山　らん	栃木県	栃木県立温水プール館
バタフライ	100m	1：06. 26	2008/ 6/ 1	瀬良まり子	栃木県	笠松運動公園屋内プール
個人メドレー	200m	2：27. 22	2012/ 6/ 3	近藤ちひろ	群馬県	栃木県立温水プール館
リレー	200m	1：55. 62	2012/ 6/ 3	笹原世・栗原・篠田・薄井	栃木県Ａ	栃木県立温水プール館
メドレーリレー	200m	2：05. 89	2009/ 5/31	今井・山田・神山・岸本	栃木県Ａ	栃木県立温水プール館

男子（一般）

種目	距離	記録	期日	新記録保持者	所属	会　　場
自由形	50m	23. 16	2009/ 5/31	小林　拓矢	茨城県	栃木県立温水プール館
自由形	100m	51. 51	2008/ 6/ 1	蛭田　尚宏	茨城県	笠松運動公園屋内プール
自由形	200m	1：51. 40	2012/ 6/ 3	西山賢太郎	茨城県	栃木県立温水プール館
自由形	400m	3：55. 99	2009/ 5/31	藤田　真成	茨城県	栃木県立温水プール館
自由形	1500m	15：45. 68	1998/ 5/17	土屋　智嗣	群馬県	群馬カリビアン
背泳ぎ	50m	26. 15	2000/ 5/21	儀賀　友昭	茨城県	栃木県体育館屋内プール
背泳ぎ	100m	55. 47	2003/ 6/ 1	錦織　　篤	茨城県	栃木県立温水プール館
背泳ぎ	200m	2：01. 33	2012/ 6/ 3	金子　雅紀	茨城県	栃木県立温水プール館
平泳ぎ	50m	29. 09	2007/ 6/ 3	岡崎晃一郎	茨城県	群馬県敷島公園水泳場
平泳ぎ	100m	1：01. 72	1995/ 5/21	須藤　秀之	群馬県	前橋大渡温水プール
平泳ぎ	200m	2：15. 39	2008/ 6/ 1	佐藤　佑樹	茨城県	笠松運動公園屋内プール
バタフライ	50m	25. 99	2015/ 5/31	浦　瑠一朗	茨城県	栃木県立温水プール館
バタフライ	100m	53. 56	2008/ 6/ 1	入江　晋平	茨城県	笠松運動公園屋内プール
バタフライ	200m	2：00. 09	2015/ 5/31	渡会　　舜	茨城県	栃木県立温水プール館
個人メドレー	200m	2：04. 19	2001/ 5/27	儀賀　友昭	茨城県	前橋大渡温水プール
個人メドレー	400m	4：26. 12	2009/ 5/31	倉貫　　壮	茨城県	栃木県立温水プール館
リレー	800m	7：34. 65	2009/ 5/31	林・藤田・加藤・阿由葉	茨城県Ａ	栃木県立温水プール館
メドレーリレー	400m	3：46. 45	2008/ 6/ 1	阿由葉・岡崎・入江・蛭田	茨城県	笠松運動公園屋内プール

女子（一般）

種目	距離	記録	期日	新記録保持者	所属	会　　場
自由形	50m	26. 52	2001/ 5/27	大川　紗代	茨城県	前橋大渡温水プール
自由形	100m	57. 14	1995/ 5/21	高見澤道代	群馬県	前橋大渡温水プール
自由形	200m	2：02. 58	2015/ 5/31	長濱　瑠花	栃木県	栃木県立温水プール館
自由形	400m	4：15. 86	2001/ 5/27	貴田　裕美	群馬県	前橋大渡温水プール
自由形	800m	8：43. 10	2001/ 5/27	貴田　裕美	群馬県	前橋大渡温水プール
背泳ぎ	50m	29. 27	2012/ 6/ 3	諸貫　瑛美	茨城県	栃木県立温水プール館
背泳ぎ	100m	1：02. 35	2012/ 6/ 3	今井　彩香	栃木県	栃木県立温水プール館
背泳ぎ	200m	2：13. 56	2008/ 6/ 1	福田　智代	群馬県	笠松運動公園屋内プール
平泳ぎ	50m	32. 36	2012/ 6/ 3	小林明日香	茨城県	栃木県立温水プール館
平泳ぎ	100m	1：10. 13	2015/ 5/31	岸　　愛弓	栃木県	栃木県立温水プール館
平泳ぎ	200m	2：32. 79	2009/ 5/31	須永風由子	群馬県	栃木県立温水プール館
バタフライ	50m	28. 03	2007/ 6/ 3	正田千登勢	群馬県	群馬県敷島公園水泳場
バタフライ	100m	1：01. 11	2012/ 6/ 3	平山友貴奈	茨城県	栃木県立温水プール館
バタフライ	200m	2：12. 57	2007/ 6/ 3	三輪　彩奈	茨城県	栃木県立温水プール館
個人メドレー	200m	2：17. 32	2009/ 5/31	山田絵梨花	茨城県	栃木県立温水プール館
個人メドレー	400m	4：51. 67	2000/ 5/21	江田　香織	群馬県	栃木県体育館屋内プール
リレー	400m	3：51. 55	2009/ 5/31	野見山・佐藤・岩崎・田山	茨城県Ａ	栃木県立温水プール館
メドレーリレー	400m	4：13. 19	2015/ 5/31	今井・岸・長濱・岸本	栃木県Ａ	栃木県立温水プール館

群馬県春季新人水泳競技会は、平成27年で52回を数える競技会であるが、参加人数が1000名を超えたことや保護者等の駐車場が確保できなくなり、保護者からの苦情が出るようになったため前橋市大渡温水プールでの実施が困難になり、平成25年度より敷島水泳場で実施することになった。なお、平成27年度の参加者数は今までで最多の1017名だった。

群馬県選手権水泳競技大会は、平成27年度で70回を数える競技会となったが、この競技会は群馬県水泳連盟で最も開催意義があり、役員編成も日本選手権と同様に折返監察員を両サイド8名ずつの配置の他、全ての部署に不足のない人員を配置して実施できるようになり、スムースで競技規則通りの運営ができるようになった。

群馬県選手権　競技の様子

群馬県選手権　表彰の様子

年齢別の競技会は公認競技会ではないが、4月と11月に実施してきた。4月は「敷島公園まつり」との合同イベントとして敷島水泳場で実施し、長水路の競技会として19回を数えるようになった。その参加範囲は、中学生と10歳代から70歳以上までの個人種目と、リレー種目は中学生と合計年齢119歳以下から280歳以上までのチームが参加してきた。11月は、短水路の競技会として16回を数える競技会であるが、前橋市大渡温水プールで実施してきた。その参加範囲は、中学生と16歳以上から80歳以上までの個人種目と、リレー種目は中学生と119歳以下から320歳以上までのチームが参加してきた。短水路大会の特徴は、通常のフリーリレー、メドレーリレーの他に混合フリーリレーと混合メドレーリレーがあることや、個人種目では25m種目が設定してあることである。なお、混合リレー種目については、近年ＦＩＮＡの公認種目として追加されたので、今後は日水連や県内の公認競技会でも採用される可能性が高い種目となると思われる。

三県対抗水泳競技大会は、平成27年で65回を数える競技会で、当年度は群馬県の開催となった。この競技会は、海なし県の群馬県、長野県、山梨県の三県対抗形式で一般選手の参加で実施されてきた。なお、この競技会には、群馬県からオリンピックに参加した内田翔選手や貴田裕美選手、内田美希選手も優勝し、優秀選手として選出されたことがある。

＊過去 10 年間の優秀選手一覧

歴代優秀選手一覧表

５０回大会より実施

区分＼年度	５６回 群馬県	５７回 長野県	５８回 山梨県	５９回 群馬県	６０回 長野県	６１回 山梨県	６２回 群馬県	６３回 長野県	６４回 山梨県	６５回 群馬県
自由形 [短距離]	松野　圭介 [山梨県]	内田　　翔 [群馬県]	池田　翔 [群馬県]	内田　　翔 [群馬県]	江原　騎士 [山梨県]	江原　騎士 [山梨県]	原田　啓徳 [群馬県]	江原　騎士 [山梨県]	陶山　周平 [山梨県]	陶山　周平 [山梨県]
自由形 [長距離]	池田　翔 [群馬県]	内田　　翔 [群馬県]	池田　慶太 [山梨県]	池田　翔 [群馬県]	須藤　勝也 [山梨県]	内田　　翔 [群馬県]	江原　騎士 [山梨県]	江原　騎士 [山梨県]	江原　騎士 [山梨県]	江原　騎士 [山梨県]
平泳ぎ	大塚　一輝 [群馬県]	大塚　一輝 [群馬県]	大塚　一輝 [群馬県]	大塚　一輝 [群馬県]	大塚　一輝 [群馬県]	加賀美　遼 [山梨県]	重森　俊二 [山梨県]	大林　稜典 [山梨県]	石川　考章 [山梨県]	大谷　　走 [山梨県]
バタフライ	山崎　智史 [山梨県]	原　　翔太 [長野県]	水口　淳一 [山梨県]	池田　翔 [群馬県]	浮島　直登 [群馬県]	内田　　翔 [群馬県]	浮島　直登 [群馬県]	浮島　直登 [群馬県]	井田　悠斗 [群馬県]	井田　悠斗 [群馬県]
背泳ぎ	岩口倫太郎 [山梨県]	原　　能成 [山梨県]	勝村　正輝 [山梨県]	角田　隼人 [群馬県]	阿部　桂祐 [群馬県]	篠田　大夢 [山梨県]	篠田　大夢 [山梨県]	平澤　一洋 [山梨県]	平澤　一洋 [山梨県]	赤坂　健太 [群馬県]
個人 メドレー	遠藤　直斗 [山梨県]	山崎　智史 [山梨県]	山崎　智史 [山梨県]	遠藤　佑貴 [山梨県]	山崎　智史 [山梨県]	青木　健紘 [山梨県]	青木　健紘 [山梨県]	青木　健紘 [山梨県]	大野　順弥 [山梨県]	西山　雄介 [山梨県]
自由形 [短距離]	長谷川幸美 [山梨県]	坂上　　梢 [群馬県]	一ノ瀬　栞 [山梨県]	内田　美希 [群馬県]	内田　美希 [群馬県]	下中　千明 [山梨県]	内田　美希 [群馬県]	岩永　有加 [山梨県]	松浦　由佳 [山梨県]	渋井　柚実 [山梨県]
自由形 [長距離]	貴田　裕美 [群馬県]	貴田　裕美 [群馬県]	貴田　裕美 [群馬県]	貴田　裕美 [群馬県]	貴田　裕美 [群馬県]	野中　瑞姫 [山梨県]	富井　千陽 [群馬県]	松浦　由佳 [山梨県]	松浦　由佳 [山梨県]	松浦　由佳 [山梨県]
平泳ぎ	丸山　亮子 [長野県]	久保田春名 [山梨県]	宗島　杏衣 [群馬県]	宗島　杏衣 [群馬県]	髙橋　未希 [群馬県]	鈴木　聡美 [山梨県]	黒部　蒔子 [山梨県]	柴山　鈴加 [山梨県]	柴山　鈴加 [山梨県]	鈴木　聡美 [山梨県]
バタフライ	加藤　ゆか [山梨県]	加藤　ゆか [山梨県]	秋山　夏希 [山梨県]	秋山　夏希 [山梨県]	秋山　夏希 [山梨県]	福田　智代 [群馬県]	小池　詩音 [群馬県]	松浦　由佳 [山梨県]	熊本　真季 [山梨県]	熊本　真季 [山梨県]
背泳ぎ	福田　智代 [群馬県]	福田　智代 [群馬県]	福田　智代 [群馬県]	福田　智代 [群馬県]	諸貫　瑛美 [群馬県]	永井　美沙 [長野県]	小松　あい [山梨県]	山下　安輝 [山梨県]	齋藤ゆりこ [群馬県]	竹迫　麻澄 [山梨県]
個人 メドレー	一之瀬　栞 [山梨県]	貴田　裕美 [群馬県]	福田　智代 [群馬県]	七里　夏海 [山梨県]	福田　智代 [群馬県]	加藤　　和 [山梨県]	七里　夏海 [山梨県]	小松原彩香 [長野県]	髙橋　未希 [山梨県]	川原　愛梨 [山梨県]

ディスタンス招待公認記録会は 16 回の開催とあまり歴史は古くないが、高井孝雄副理事長と小茂田猛副理事長のご尽力により競技会の設定と全国の優秀選手（インターハイ・全国中学入賞者)を招待しての競技会となり、全国各地から参加者が集うようになった。過去にはオリンピック 800 m自由形で優勝した柴田亜衣選手（当時・鹿屋体育大学）も 2004 年度に参加した。この競技会は、平成 27 年度も同様に実施するが、ディスタンス水泳終了後にオープンウォーター競技も実施する計画で進めている。なお、両競技が今後とも末永く続くことを期待するものである。

ジュニアオリンピックの県内予選で県水連が主管で行う競技会は、夏季の長水路大会と春季の短水路大会の２回である。この競技会は全国ＪＯＣジュニアオリンピックカップ水泳競技大会に参加するための予選会であるが、ここ数年県予選会の参加人数は、夏季、春季ともに 600 名程度であった。また、これらの予選会で標準記録を突破し、全国大会へ参加した人数の最多は 2009 年度の夏季大会で 185 名であったが、年々標準記録が上がり 2014 年度は夏季、春季とも 71 名と減ってきている。これは、日本全体のジュニア競泳選手の競技力が向上したことと、開催競技場の収容人数に限界が出てきたことが要因かと思われるが、今後とも県内ジュニア選手のますますの競技力の向上を期待するものである。

最後になるが、群馬県クラブ対抗水泳競技大会の過去10年間の男子総合、女子総合、男女総合の3位入賞チーム名の一覧を下記に紹介する。

年　度　別　成　績　表

区分＼年度		2006 22回		2007 23回		2008 24回		2009 25回		2010 26回
男子総合	1	イトマン高崎（218点）	1	スウィン高崎（185点）	1	スウィン太田（201点）	1	スウィン前橋（202点）	1	スウィン前橋（181点）
	2	群馬渋川SS（189点）	2	群馬渋川SS（175点）	2	群馬SS（171点）	2	群馬SS（167点）	2	スウィン太田（131点）
	3	イトマン館林（142点）	3	スウィン太田（150点）	3	スウィン前橋（158点）	3	群馬渋川SS（125点）	3	群馬SS（120点）
女子総合	1	イトマン館林（204点）	1	スウィン館林（218点）	1	スウィン館林（269点）	1	スウィン館林（251点）	1	スウィン館林（275点）
	2	イトマン太田（154点）	2	スウィン太田（162点）	2	スウィン太田（191点）	2	スウィン前橋（201点）	2	スウィン前橋（221点）
	3	イトマン高崎（150点）	3	スウィン高崎（154点）	3	スウィン高崎（153点）	3	スウィン太田（183点）	3	スウィン太田（178点）
男女総合	1	イトマン高崎（368点）	1	スウィン館林（345点）	1	スウィン太田（392点）	1	スウィン前橋（403点）	1	スウィン前橋（402点）
	2	イトマン館林（346点）	2	スウィン高崎（339点）	2	スウィン館林（380点）	2	スウィン館林（370点）	2	スウィン館林（393点）
	3	イトマン太田（236点）	3	スウィン太田（312点）	3	スウィン前橋（300点）	3	スウィン太田（302点）	3	スウィン太田（309点）
区分＼年度		2011 27回		2012 28回		2013 29回		2014 30回		2015 31回
男子総合	1	スウィン前橋（206点）	1	スウィン前橋（227点）	1	スウィン前橋（175点）	1	スウィンあざみ（140点）同得点リレー上位	1	スウィン前橋（150点）
	2	スウィン館林（150点）	2	スウィン太田（170点）	1	スウィン太田（175点）	2	スウィン太田（140点）	2	スウィン伊勢崎（141点）
	3	群馬SS（132点）	3	群馬SS（116点）	3	スウィンあざみ（112点）	3	スウィン前橋（131点）	3	スウィン太田（130点）
女子総合	1	スウィン前橋（203点）	1	スウィン伊勢崎（217点）	1	スウィン伊勢崎（223点）	1	スウィン伊勢崎（195点）	1	スウィン伊勢崎（224点）
	2	スウィン伊勢崎（186点）	2	スウィン前橋（184点）	2	スウィン高崎（177点）	2	スウィン高崎（193点）	2	スウィン高崎（187点）
	3	スウィンあざみ（185点）	3	スウィン館林（166点）	3	スウィン前橋（169点）	3	スウィンあざみ（168点）	3	スウィン前橋（156点）
男女総合	1	スウィン前橋（409点）	1	スウィン前橋（411点）	1	スウィン前橋（344点）	1	スウィン伊勢崎（324点）	1	スウィン伊勢崎（365点）
	2	スウィン館林（313点）	2	スウィン館林（275点）	2	スウィン伊勢崎（293点）	2	スウィン高崎（322点）	2	スウィン前橋（306点）
	3	スウィンあざみ（304点）	3	スウィンあざみ（262点）	3	スウィンあざみ（257点）	3	スウィンあざみ（308点）	3	スウィン高崎（300点）

将来の展望

競技委員会の今後の展望として二点あります。まず最初に上げたいのは事務局の設置です。他都道府県では、事務局を設置しプログラムの作成や委嘱状の発送、その他の業務を事務局員が対応して仕事を進めています。当然、事務局員を置くには、事務局となる場所を確保することや事務局員を雇用することが必要になります。そのためには事務局の借用、事務局員の雇用費用等が必要になり、群馬県水泳連盟としての予算化がなければ実現できません。余り遠くない将来に置いて、これらのことが実現できることを期待しています。二つ目は、競技委員長職の仕事内容の改善です。水泳連盟の仕事自体がボランティア活動ということで無報酬で取り組んでいますが、競技会要項集、プログラムの作成、競技会調査の発送、施設賠責保険の申込みと保険料の振り込み、シルバー人材への依頼、日本選手権等の派遣競技役員としての出張、競技役員講習会の設定等、数多くの仕事を抱えています。そこで、このような仕事内容も改善できるよう検討をお願いしたいと常々考えています。

また、競技会の運営をスムースに実施するためには、競技場の施設、備品等の充実が急務であると思います。現在、県水連が公認競技会として実施している競技場は、敷島公園水泳場と前橋市大渡温水プールですが、どちらの施設も開場以来20年前後経過してますが、特別な改修工事は行われていない状況です。敷島水泳場ではタッチ板の老朽化で不具合が頻繁に起こる状況であり、大渡温水プールでも、スタート台が開場以来のままであり、大柄な選手がスタート台に上がると身体を縮めて構える姿は見ていて可哀想な感じさえする状況です。このような状況を県や前橋市が十分検討して改善していただき、よりよい環境で全国や世界の選手に対抗できるような選手を育成していくことも急務だと考えます。

競泳委員会

所 轄 事 項　1. 競泳強化訓練の企画と運営に関する事項
2. 強化講習会・研修会に関する事項
3. その他

役　員

委 員 長　安藤　学（所属：共愛学園高等学校）
副委員長　小茂田　猛（所属：県央スイミングスクール）
山室　護（所属：スウィン前橋スイミングスクール）

沿　革

昭和58年地元開催国体（あかぎ国体）を成功させようと山田稔氏が競泳委員長として、今ある群馬県の強化の骨組みを作り、それを引き継ぎ田中信宏前委員長が「群馬県からオリンピック選手を出そう」を合言葉に国内の主要大会、オリンピックやその他国際大会において活躍出来る水泳競技力の向上を目指す強化活動。将来群馬県水泳界を担う国際感覚を持った人材教育。世界を視野に入れた強化の一環として海外合宿を取り入れるなど様々な五輪出場を目指しての強化計画を打ち立ててきた。その成果もあり競技力は年々向上し国体の成績も右肩上がりで向上していった。2009年度の水泳連盟任期改選により前競泳委員長田中信宏氏が理事長に就任することとなり、それに伴いそれまで競泳委員として競泳委員会にたずさわってきた安藤学氏が就任することとなった。

事業内容

○選手強化事業
・拠点強化事業　・春季強化合宿　・インターハイ全中合宿
・国体強化合宿　・冬季合宿　・春季合宿（中学3年生対策事業）
・海外合宿　・関東ブロック突破対策事業　・スポーツ指導者養成事業
○北関東大会選手選考
○三県対抗水泳大会選手選考
○国体選手選手選考
○海外合宿選手選考

平成23年　山口国体

活動報告

＜ 海外合宿 ＞

平成9年～平成11年　オーストラリア［3年間］

国立スポーツトレーニングセンター（ＡＩＳ）や「スレドボ　アルバイン　トレーニングセンター・ウーロンゴング大学」でシドニー五輪を意識させるために開催地であるオーストラリアで実施。

平成12年～平成17年　アメリカ［6年間］

フラグスタッフにある「ノースアリゾナ大学」で持久能力を高める事を目的とした高地トレーニングが行える場所に移し実施。平成13年はアメリカのテロの関

平成16年　フラグスタッフ

係で中止となった。

平成 18 年～平成 19 年　韓国［2 年間］

済州島「済州市総合運動公園室内プール」慶尚北道　金泉市様々にある「金泉市室内水泳場」で移動にあまり時間がかからず近い国での合宿と日本と韓国の日韓交流事業を見据えて実施。

平成 20 年～平成 22 年　シンガポール［3 年間］

「CHANGI　BEACH　CLUB　POOL」で冬場の寒い日本から夏と同じ暑い環境でしっかりと泳げる合宿地として実施。

平成 23 年　韓国合宿

平成 23 年～平成 24 年　韓国［2 年間］

済州島「済州市総合運動公園室内プール」に戻り、どんな環境下でも体調管理ができ、自分の行動を自分でコントロール(自律)でき、どんな言語でもコミュニケーションをとれるようになる。(精神的なタフネスを備える）を目的に実施。

平成 25 年　マレーシア［1 年間］

シャー・アラム「シャー・アラム市営プール」で実施。食事や水が合わず体調不良者が多数続出したため、1 年で取りやめることとなった。

平成 26 年　オーストラリア合宿

平成 26 年～平成 27 年　オーストラリア［2 年間］

マレーシアのような体調不良者が出ないよう食事や衛生面で心配がなく、暖かく体を動かすのに適したゴールドコーストの「SPORTS　SUPER　CENTRE」及び「GoldCoast Aquatic　Centre」で実施。

＜国体成績＞

近年の競泳獲得点	天皇杯得点	皇后杯得点	成年男子	少年男子	成年女子	少年女子
平成 18 年　兵庫県	78.5 点	63.5 点	1 点	14 点	18 点	45.5 点
平成 19 年　秋田県	64 点	48 点	6 点	10 点	15 点	33 点
平成 20 年　大分県	97 点	48 点	18 点	31 点	45 点	3 点
平成 21 年　新潟県	83 点	56 点	16 点	11 点	36 点	20 点
平成 22 年　千葉県	66.5 点	54.5 点	7 点	5 点	29 点	25.5 点
平成 23 年　山口県	57 点	37 点	4 点	16 点	18 点	19 点
平成 24 年　岐阜県	47.5 点	32.5 点	0 点	15 点	7 点	25.5 点
平成 25 年　東京都	45.5 点	42.5 点	0 点	3 点	21 点	21.5 点
平成 26 年　長崎県	40 点	34 点	0 点	6 点	15 点	19 点
平成 27 年　和歌山県	39 点	27 点	0 点	12 点	19 点	8 点

将来の展望

北京オリンピック（内田　翔）ロンドンオリンピック（内田美希・貴田裕美（ows））と 2 大会連続でオリンピックに選手を送り出す事ができた。2016 年のリオデジャネイロ、2020 年に行われる東京オリンピックや世界選手権、国際大会に 1 人でも多くの選手を送り出し、2028 年に行われる二巡目地元国体で最高の成果が出せるよう、各委員会と連携し「強い群馬」を目標に今後も選手強化に取り組んでいきたい。

水球委員会

所 轄 事 項　1. 県内の水球競技の強化・普及に関する事項

役　員

委 員 長　諏訪部　晃
副委員長　髙野　裕史
委　　員　佐藤　賢一　本宮万記弘　志賀　築子　清水　昭宏

沿　革

群馬県の水球についての取り組みは、昭和44年の群馬県インターハイに際して、昭和43年に県立前橋商業高等学校に水球部を創部したことに端を発する。

その後、前橋高等学校・高崎高等学校・桐生工業高等学校・前橋南高等学校・沼田高等学校・利根商業高等学校に水球部が創部され、全盛期は県下7校が水球部を擁していた。現在は、前橋商業高等学校・前橋南高等学校・前橋高等学校が水球部を有しており、県内3校が活動している。また、昭和63年には前橋南高等学校に女子水球部が創部され、全国ベスト8という結果を残した。現在は、県内に活動している女子水球部はない状態である。その後、群馬ジュニア水球が創設され、群馬県のジュニア選手強化の根幹を担っている。

群馬県の水球は昭和43年に前橋商業高等学校に水球部が創部されて以来、優秀な成績を収めてきた。昭和47年に国民体育大会初優勝、次いで昭和48年にインターハイ初優勝（前橋商業）を皮切りに、昭和58年群馬県で開催された国民体育大会でも優勝をおさめた。また、昭和61年から平成元年までの4年間、インターハイでの優勝を譲ることがなかった（前橋商業）。近年では、平成18年から平成20年の3年間、水球の3大大会であるインターハイ（前橋商業）・国民体育大会・ＪＯＣジュニアオリンピックカップにおいて優勝し、3冠3連覇を達成した。

【主な大会記録（優勝）】〈小学生〉

ＪＯＣジュニアオリンピックカップ水球競技大会　優勝
平成12年　春大会　　平成13年　夏大会・春大会
平成14年　夏大会　　平成24年　夏大会　　（優勝5回）

【主な大会記録（優勝）】〈中学生〉

ＪＯＣジュニアオリンピックカップ水球競技大会　優勝
平成15年　夏大会・春大会　　平成16年　夏大会・春大会
平成17年　夏大会・春大会
平成20年　春大会　　平成21年　夏大会　　（優勝8回）

【主な大会記録（優勝）】〈高校生〉

昭和 47 年　第 27 回国民体育大会（鹿児島）　初優勝
昭和 48 年　インターハイ（三重）　初優勝
昭和 58 年　第 38 回国民体育大会（群馬）　優勝
　　インターハイ（愛知）　優勝
昭和 59 年　第 39 回国民体育大会（奈良）　優勝
平成　元年　第 44 回国民体育大会（北海道）　優勝
昭和 61 年～平成　元年　インターハイ　4 連覇
平成　8 年　第 51 回国民体育大会（広島）　優勝
平成 15 年　インターハイ（長崎）　優勝
平成 18 年～平成 20 年　インターハイ　国民体育大会
　　（ＪＯＣジュニアオリンピックカップ）３大会３連覇

※インターハイの優勝は全て前橋商業高等学校

事業内容

○リーダー養成研修会による高校生選手の育成
○スーパーキッズプロジェクトによるジュニア育成
○水球教室の開催による、水球競技の普及活動

将来の展望

群馬県の水球は、高等学校のインターハイにおいて最多の優勝記録を持っている（前橋商業）。近年はインターハイ・国民体育大会であと一歩のところで優勝を逃しているため、高校生選手のさらなる強化に尽力していきたい。また、ジュニアの育成･強化、女子水球の強化に取り組み、群馬水球の基礎根幹をさらに確固たるものとし、インターハイや国民体育大会での成果を出していきたい。

昭和 59 年　第 39 回国民体育大会（奈良）優勝　前橋駅にて

飛込委員会

所 轄 事 項　1. 飛込競技会の企画と運営に関する事項
2. 強化訓練・講習会・研修会関する事項　3. その他

役　員　委員長　野村　孝路（平成21年度まで）任期途中交代　高橋　史倫（平成22年度から）

沿　革　昭和58年「あかぎ国体」開催決定を期に数年前より選手確保・強化を進め、昭和55年栃木県開催の「栃の葉国体」に成年男子1名、成年女子1名の計2名が群馬県初の国体出場を果たした。昭和56年度から指導者兼任の選手を招き、高校生男子2名・女子2名を新たに加え、計6名の選手で国体強化がスタートした。「あかぎ国体」で使用した前橋市民プールが昭和63年秋に取り壊され、平成7年に現在使用させていただいている群馬県立敷島公園水泳場飛込プールが建設された。群馬県水泳連盟飛込委員会としての歴史は浅いが、あかぎ国体時の選手が今は監督、コーチとなり全国または日本代表としても活躍できる優秀な選手を育てた

○主な競技成績（抜粋）

平成18年度

・アジア大会　村上　和基　男子高飛込　4位
・世界ジュニア　村上　和基　16～18歳男子3m飛板飛込 出場・16～18歳男子高飛込 出場
倉澤　歩・富山香奈子　女子シンクロ3m飛板飛込　4位
・日本選手権　村上　和基　男子高飛込　2位
倉澤　歩・富山香奈子　女子シンクロ3m飛板飛込　2位
・国民体育大会　村上　和基　少年男子3m飛板飛込 優勝・少年男子高飛込 優勝
倉澤　歩　少年女子3m飛板飛込　2位
田中紀美子　少年女子高飛込　3位
・全国ＪＯ　富山香奈子　14～15歳女子3m飛板飛込　優勝・高飛込　3位

平成19年度

・日本選手権　村上　和基　男子高飛込　優勝・男子3m飛板飛込　3位
・日本室内選抜　倉澤　歩・富山香奈子　女子シンクロ3m飛板飛込　2位
・国民体育大会　村上　和基　少年男子高飛込　優勝・少年男子3m飛板飛込　優勝
・日本学生選手権　倉澤　歩　女子高飛込　3位

平成20年度

・世界ジュニア　富山香奈子　16～18歳女子3m飛板飛込　出場
・日本選手権　村上　和基　男子高飛込　優勝・男子3m飛板飛込　3位
富山香奈子　女子1m飛板飛込　2位
・国民体育大会　村上　和基　成年男子高飛込　優勝・成年男子3m飛板飛込　3位
倉澤　歩　成年女子高飛込　2位
田中紀美子　少年女子高飛込　優勝・少年女子3m飛板飛込　2位
・日本学生選手権　村上　和基　男子高飛込　優勝

平成21年度

・世界選手権　村上　和基　男子高飛込　出場
・ユニバーシアード　村上　和基　男子高飛込　5位
・日本選手権　村上　和基　男子高飛込　優勝・男子3m飛板飛込　優勝
富山香奈子　女子1m飛板飛込　3位
倉澤　歩・富山香奈子　女子シンクロ3m飛板飛込　優勝
・国民体育大会　村上　和基　成年男子高飛込 優勝・成年男子3m飛板飛込 優勝
倉澤　歩　成年女子3m飛板飛込　3位
富山香奈子　少年女子3m飛板飛込　2位
・日本学生選手権　村上　和基　男子高飛込　2位・男子3m飛板飛込　優勝
倉澤　歩　女子3m飛板飛込　3位

平成22年度

・アジア大会　村上　和基　男子高飛込　7位
・日本選手権　村上　和基　男子高飛込　優勝・男子3m飛板飛込　2位
・国民体育大会　村上　和基　成年男子高飛込　優勝・成年男子3m飛板飛込　2位
・日本学生選手権　村上　和基　男子高飛込　優勝・男子3m飛板飛込　2位
倉澤　歩　女子高飛込　3位・女子3m飛板飛込　2位

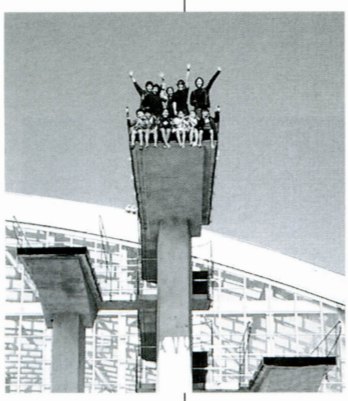
平成 23 年度
・世界選手権　村上　和基　男子高飛込　出場
・国民体育大会　村上　和基　成年男子高飛込　3位・成年男子3m飛板飛込　4位
・日本学生選手権　村上　和基　男子高飛込　4位・男子3m飛板飛込　2位
平成 24 年度
・日本選手権　村上　和基　男子高飛込　優勝・男子3m飛板飛込　4位
・国民体育大会　村上　和基　成年男子高飛込　2位・成年男子3m飛板飛込　2位
・日本学生選手権　近藤　愛彩　女子高飛込　3位
・全国ＪＯ　近藤　花菜　9～11歳女子1m飛板飛込　2位
平成 25 年度
・日本学生選手権　近藤　愛彩　女子高飛込　2位
平成 27 年度
・全国ＪＯ　大竹　玲央　12～13歳男子1m飛板飛込　2位
・全国ＪＯ（春）　大竹　玲央　12～13歳男子1m飛板飛込　優勝

事業内容

○公益財団法人群馬県スポーツ協会主催である拠点施設活用事業を水泳連盟として、平成 12 年度より実施し、平成 27 年度で継続 16 年を迎え、この事業の成果が結果として表れた。
○定期強化合宿として、5 月ゴールデンウィークの日本体育大学との春季合同強化合宿、8 月中旬の全国高校・全国中学校強化合宿、国体出発前に敷島プールでの事前強化合宿及び開催地である大会会場プールにて国体調整合宿を毎年行っている。
○平成 20 年度に海外遠征合宿を開催
・実施場所　中国　上海　「上海跳水会館」　・実施期間　1 月（20 日間）
・参加選手　男子：村上　和基　女子：倉澤　歩・富山香奈子
・コーチ　野村　孝路
○平成 23 年度に海外遠征合宿を開催
・実施場所　中国　上海　「上海跳水会館」　・実施期間　1 月～ 2 月（30 日間）
・参加選手　村上　和基　・コーチ　野村　孝路

活動報告

群馬県立敷島公園水泳場を拠点に通常練習を行った。
プール練習は期間外使用申請を行い、5 月のゴールデンウィーク翌日より入水し、10 月まで平日は 17 時から 20 時までの 3 時間、土日祝日は午前 4 時間・午後 4 時間の 8 時間以上にわたる練習を実施した。
また、外プール閉鎖期間の冬期においては、敷島公園水泳場のご理解を頂き、50 m プールのプールサイドの一部を借用し、ドライランド練習（トランポリン、スパッティング、マットワークストレングストレーニング等）を実施した。さらに、平日の 1 日もしくは土・日を利用し、長野県のアクアウィング及び新潟県のダイエープロビスフェニックス屋内プールに通い、冬場の練習に励んだ。



将来の展望

二巡目の群馬県開催国体が 13 年後の平成 40 年に予定しており、東京オリンピックやそれ以降の国際大会での活躍を見据えて、小学生からのジュニア層の育成強化システムの構築やそれに伴う練習施設・大会会場の充実、さらなる指導者の確保などの課題を根気よく解決し、国内はもとより、国際的にも通用する競技力の向上を図りたい。

シンクロ委員会

所轄事項　1. シンクロ競技の運営連絡等に関する事務事項
2. 登録に関する事項　3. 施設に関する事項　4. 広報に関する事項
5. その他

役　員　委員長　設楽登美子
委　員　石川　華代　高橋　啓子

沿　革　本県シンクロは、活動を休止していたが、1999年、委員長（設楽登美子氏）が群馬に転居し、2000年、敷島公園水泳場の塚越場長さんより、シンクロを起ち上げて欲しいと依頼があり、敷島シンクロと名前を付けて頂き発足しました。事務所は敷島公園水泳場にてスタートし、年間の競技予定や会員募集、広報活動など、皆様の協力のもと活動を開始することが出来ました。

活動報告　一期生の4人が、2003年全国ＪＯに出場できました。チーム競技は4～8人ですが、8人で泳げない場合は1人につき0.5減点され4人では2点減点されます。通過得点に達するにはとても厳しいものになります。一期生の頑張りはとても嬉しいことでした。子供の頑張りを見て、選手のお母様達が広報活動をし、テレビ・新聞・ラジオ・雑誌など取り上げていただき、本当に有難く思っています。

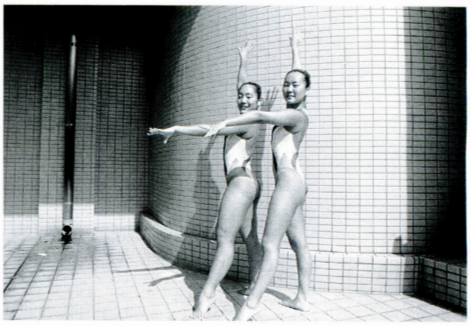
2003年　ＪＯ関東ブロック予選

国体関東ブロック予選大会には、一期生が高校生になり出場できましたが、関東はレベルが高く、本大会への出場は難しいのが現実です。その後も高校生まで選手として頑張ってくれる選手は少なく、なかなか厳しい現状です。50ｍ・1コースでの練習状況、高校生の身長では深さが浅く沈み込みが出来ない等、選手にとっては大変なことであろうと感じています。

2014年ユースセレクションに、中学生が関東より選考され、強化合宿に参加しました。最終選考には残ることができませんでしたが、大変良い経験ができました。

2008年

2010年


2015年　国体予選

敷島公園水泳場10周年記念行事にナショナルの選手（藤森麗子氏）を呼んでいただきました。ナショナルの泳ぎをみて刺激をうけ、これからの練習に頑張っていけるよう皆さんの応援を頂きました。少しでも練習場所を確保するために、新潟・長野に出かけ深いプールでの練習にも参加させてきました。

婦人シンクロ教室も、週一度の練習を続け、一年に一度の発表会が、東京辰巳国際水泳場で行われています。記念行事として、2014年グアムで発表会が有り、子供たちに負けず、楽しく参加してきました。

全国ＪＯ、チャレンジカップ、国体予選など、この15年間参加を続けてきました。

10周年記念

2015年　高崎市浜川プール

将来の展望

今後チームメンバーの充実を図り、日本選手権の出場を目指して活動を続けていきます。

皆様の応援と協力により、どうにか進んでまいりました。これからも末永く応援宜しくお願い致します。皆様のご支援がなければ到底、続くことは出来ません、お寄せいただきました、お力添えに熱く厚くお礼申し上げます。

2012年　チャレンジカップ

2012年　敷島公園水泳場

地域指導者委員会

所 轄 事 項　1. 水泳普及の企画と運営に関する事項
　　2. 指導員養成と検定に関する事項を所管する

役　員

委 員 長　前川　浩市
副委員長　山口　友幸（横泳ぎ・潜行担当）　柳瀬　保孝（4泳法担当）
総務委員　峰岸芙美子（受付他担当）
検定委員　委員長を検定委員長とし、会長・副会長・理事長・上級指導員資格者を中心にして指導員養成講習・検定を実施する

沿　革

平成5年まで高橋　功氏を委員長として活動する。平成6年からは現在の委員長により活動をしており、委員会の名称も当初の「普及委員会」から、全国に倣って「地域指導者委員会」へと変更された。その間、指導員資格の変更により、資格の名称は「水泳2種指導員」「水泳1種指導員」「水泳上級指導員」から「アシスタント指導員」「C級スポーツ指導員」「B級スポーツ指導員」「A級スポーツ指導員」へと変更され、さらに現在の「基礎水泳指導員」「水泳指導員」「水泳上級指導員」という名称の資格へと変更されている。現在「水泳指導員」資格を所有している方には、当初の「水泳2種指導員」から「C級スポーツ指導員」、さらに「水泳指導員」と移行してきてた方が多数いる。

平成27年12月現在の県内指導員資格所有者の数は、水泳上級指導員22名（内マスター称号所有者5名）、水泳指導員190余名、基礎水泳指導員130余名、計340余名とかなりの大所帯となっている。

事業内容

一つには（公財）日本水泳連盟の指導員資格に基づいて、各都道府県で指導員養成・検定を行っている。本県では現在基礎水泳指導員の養成講習会ならびに検定を行っている。

過去10年間の基礎水泳指導員の検定結果を表したものが下の表である。近年の受講・受験者数は平成23年の39名が最高となっているが、最近では20名前後となっている。また合格率は平成26年に90%に達したが、平均では73%位である。一人でも多くの指導員を養成するために、多くの方たちの協力の下、養成講習会を行っているが、どうしても年によって合格率にばらつきが見られてしまう。一定基準に達した者は合格できるのであるが、受講者の取り組み方や技量にも関係があるのではないかと考えられる。

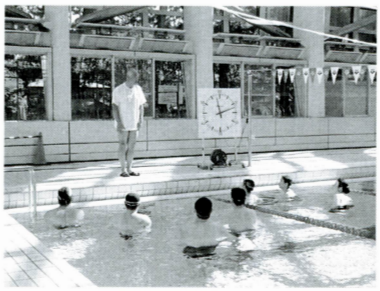
過去10年間の検定結果

年度	受験者数	合格者数	合格率
18年	23人	19人	82.6%
19	37	23	62.1
20	24	19	79.1
21	18	11	61.1
22	12	7	58.3
23	39	31	79.4
24	28	23	82.1
25	20	12	60.0
26	22	20	90.9
27	16	11	68.7
合計	239人	176人	73.6%

基礎水泳指導員養成講習会の様子［会場：敷島公園水泳場、県総合スポーツセンター］

開講式

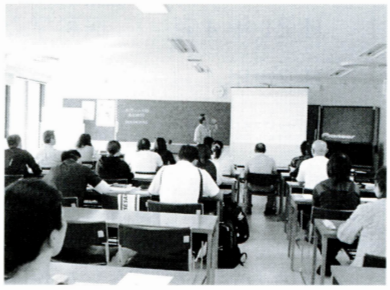
4泳法の練習



スタート練習

心肺蘇生法の練習

講義の様子

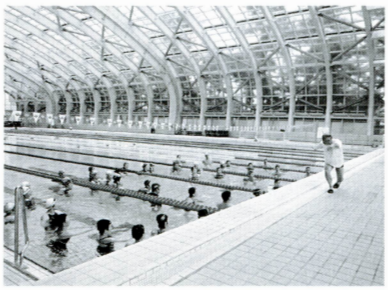


もう一つの事業としては、資格を更新するための「義務研修会」を開催している。指導員資格の有効期限は4年間なので、資格を継続したい場合には4年間の内に1回以上の研修会への参加が義務づけられ、これを更新の条件としている。

内容は午前に各種泳法と心肺蘇生法の練習、午後に「水泳指導法・水泳事故」・「社会体育と水泳・指導者」という内容での講義を行っている。基礎水泳指導員・水泳指導員・水泳上級指導員が一堂に会しての講習会・交流の場であるので、資格の更新のためだけではなく、指導員としての資質の向上のためにも必要な研修会であると考える。

義務研修会（午前の実技）の様子［会場：敷島公園水泳場］

各種泳法の練習



心肺蘇生法の練習

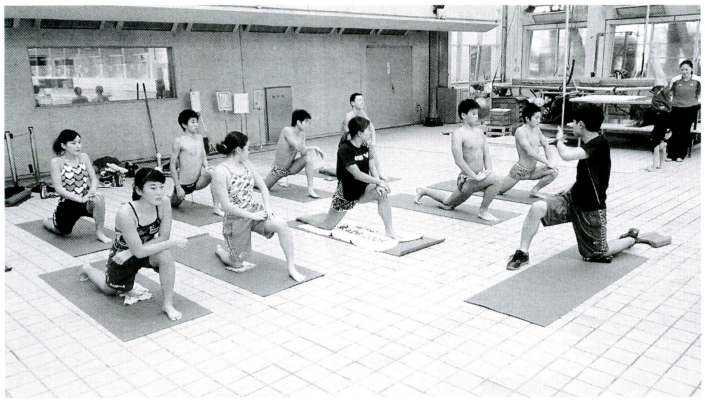
将来の展望

現在、指導員の高齢化により資格を更新しない方が増えてきており、水泳指導員の数が減少傾向にある。しかし、毎年20名近くの基礎水泳指導員の誕生、および基礎水泳指導員から水泳指導員の資格を取得する方が毎年5名ほどいる。指導員をできるだけ多く養成することで、選手の育成のみならず、地域の水泳愛好者への指導にも役立っていると考えられる。それによって県民の水泳愛好者への指導援助、ひいては県民の健康や体力の維持・増進に少しでも役立てばと考えている。

医科学委員会

所轄事項　1. 水泳の普及強化に関する医科学的事項
　　2. その他

役　員	委員長　猪股　伸晃（上牧温泉病院） 副委員長　加藤　大悟（上武呼吸器科内科病院）　贄田　高弘（榛名荘病院） 及川　広太（お茶の水整形外科）　小保方裕貴（東前橋整形外科）
沿　革	H 14 年頃～　現委員長がトレーナーとして競泳合宿や国体へのサポートを開始。 H 21 年 4 月 -　医科学委員会発足（委員 1 名）し、委員会としてのサポートを開始。 H 23 年 4 月 -　委員 3 名となる。競泳合宿の交代制トレーナーサポート開始。 H 25 年 4 月 -　委員 5 名となる（現編成）。飛込のトレーナーサポート開始。 第 1 回委員会兼研修会開催
事業内容	・競技力向上を目的とした医・科学サポートに関すること 競泳・飛込委員会と協調し、日常でのトレーニング、合宿に帯同し障害への対応、障害予防のためのストレッチング・補強エクササイズ指導といったトレーナーサポートを実施。 ・競技会に伴う医・科学サポートに関すること 国民体育大会、三県対抗などの競技会におけるコンディショニングを実施。 ・その他、医・科学関連事業の目的達成に必要なこと 合宿参加者や強化選手を対象としたメディカルチェックを実施。また、その他、障害予防、競技力向上に関する医科学的研究の実践。



↑→　合宿でのエクササイズ指導の様子

活動報告

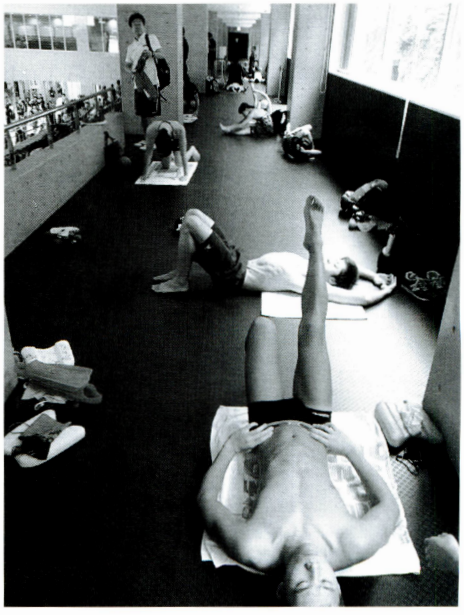
・委員会兼研修会（H25年度より年1回）
・春季、夏季、国体、冬季合宿および海外合宿でのトレーナーサポート（年5回～）
・国民体育大会へのトレーナー帯同
・三県対抗（自県開催）へのトレーナー帯同（H27年度～）
・ＳＣ部会でのコンディショニング講習（H27年度～）

将来の展望

当委員会は現委員が合宿でのトレーナーサポートを実施したことに由来し、発足、競泳競技のトレーナーサポートを中心に発展してきた。現委員は全て病院勤務の理学療法士で構成され、多くが競泳競技歴を有している。当初は強化選手の身体の痛みや違和感を改善するための徒手的な対応が中心であったが、選手教育の観点からＨ23度よりセルフコンディショニング方法の学習や故障しづらい身体づくりを目的とした、ストレッチングや陸上での補強エクササイズ指導を開始した。また、委員は日本水泳トレーナー会議の会員であり、当該会議主催の研修の受講や各競技会、様々な合宿へのサポート、委員会定例研修会を通して選手への対応技術・知識の継続的な習得に努めている。

将来的な展望として‘医事’および‘科学’に関する事項の双方の分野において発展させることが当委員会の責務であると考えている。医事分野においては、トレーナーサポートの対象の拡大、強化選手の障害・外傷に関して相談でき、連携できる医師および医療機関の選定、強化選手に個別的なメディカルチェックを実施し、障害発生リスクの抑制および競技力向上に関する身体機能面での積極的サポートの実施、ドーピングおよび薬の使用に関する教育・啓発等が課題である。また、科学分野においては前出のメディカルチェックの結果分析により、障害発生要因の調査や公表、本県選手の競技力向上に関する身体的要因の選定および公表、関連学会での活動が課題である。

このように当委員会は水泳を多角的な視点からみることができ、関係委員会への有益な提案ができる可能性を秘めている。今後も様々な人材を招聘し、関係委員会と連携を密にとりながら、本県水泳連盟の更なる発展に貢献していきたい。



↑　SC部会でのコンディショニング講習の様子
→　国体でのウォーミングアップ前の選手の様子

情報処理委員会

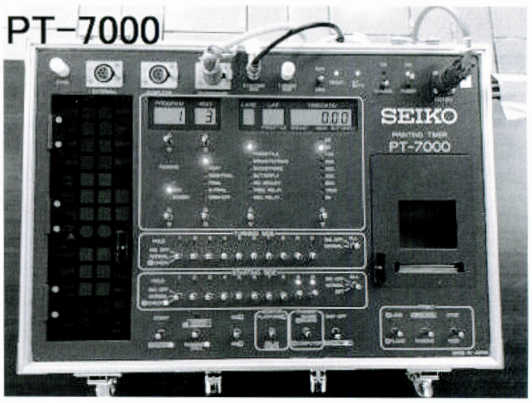
所轄事項　1. 情報処理の運用に関する事項
　　2. 連盟ＨＰの運用に関する事項
　　3. その他

役　員

委員長	犬塚　均（県中体連）	
副委員長	高井　孝雄（副理事長　登録担当）	高橋光太郎（Jr 委員会）
委　員	安藤　学（競泳委員長）	秋山　浩一（競技委員会　高崎水協）
	深澤　功（県高体連）	日向　将一（Jr 委員会）
	小池　和也（県高体連）	関　宗一郎（県中体連）

沿　革

情報処理委員会は、競技会でのコンピュータによる記録処理の方法の発展とインターネットの普及を背景に発足した。過去 10 年を含み、情報処理委員会発足の経緯が委員会の沿革といえる。



平成８年に敷島公園水泳場が屋内プールに改修された折にタッチ板・ＰＴが導入された。かつては、複数の計時員が目視と手動計時で取っていたタイムが自動計測できるようになった。

平成 10 年にＤＯＳ版のリザルトシステムが導入された。複写の用紙に手書きしていた記録の処理、手作業で行っていた班組、記録の集約、印刷が自動化され、大会中の記録の処理は競技進行と並行して行えるようになった。

平成 11 年から SWMSYS による競技会申込みを開始した。提出されたＦＤからリザルトシステムにエントリーデータを取り込むことで、大会の度に選手名、参加種目などをコンピュータに打ち込むことなくエントリーが可能となった。

また賞状システムの利用がはじまった。タッチ板から取り込まれた記録をそのまま賞状に印刷できるため、書き間違いがなく筆耕者を確保する負担を無くした。

平成 15 年に、Windows 版リザルトシステムが導入された。

平成 18 年から Web-SWMSYS の利用が開始された。Web-SWMSYS では、SWMSYS のＦＤの提出に代わり、インターネット上でエントリーを行える。また選手の記録は日水連へ報告され、ランキングに反映されるようになった。

平成 19 年には、Web-SWMSYS への移行が完了した。システム導入により、競技者には永久に使用するＩＤ番号が付与され、生涯にわたる記録の一元管理が可能となった。

平成 20 年に、県中体連がアルファベット使用の団体登録で利用をはじめた。以後、未公認大会のエントリーも含めて Web-SWMSYS の利用がひろがった。

利便性が高まる反面、記録処理担当者は大会の設定、エントリー情報の取り込み、日水連への報告等の処理とそのスキルが求められるようになった。同時期にジュニア委員会、中体連等がそれぞれＨＰを立ち上げるなど、情報発信の場も必要となってきた。

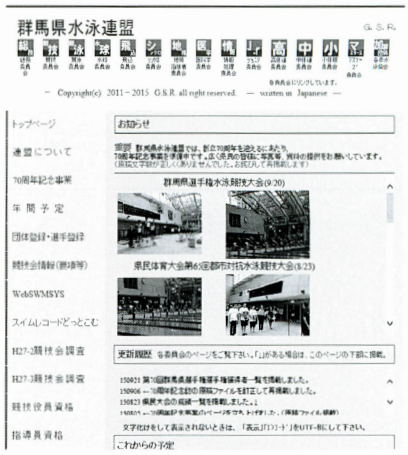
平成 22 年にリザルト、Web-SWMSYS の普及、記録業務のＩＴ化に尽力した高井孝雄前競技

委員長の退任を機に、群馬県水泳連盟は拡大する記録管理業務を競技委員会から独立させ、あわせて情報発信に携わる情報処理委員を立ち上げる準備を始めた。

平成23年4月　群馬県水泳連盟ＨＰを公開した。

（http://gunma-swim.org/）

平成25年4月　群馬県水泳連盟情報処理委員会が発足した。



事業内容

○団体登録、選手登録とりまとめ

○選手の二重登録防止対策・対応（カード連絡、マージ処理）

○日水連への競技会記録報告

○県対抗競技大会エントリー補助（北関東大会、国体、三県対抗大会）

○連盟ＨＰ管理（開設から５年経過）ＨＰによる連盟活動の広報

○水泳場設置連盟ＰＣの管理

○次年度公認競技会報告（日水連へ）等

将来の展望

平成25年4月に群馬県水泳連盟情報処理委員会が発足した。各委員会・部会の記録管理担当者が、情報処理委員として携わってきた業務を継続して行っていく中で、情報交換し、課題の解決やスキルの充実を図っている。まだ少なからず競技委員会が行っている記録管理に関わる業務を引き受けていけるよう組織の充実を目指していきたいと考える。

平成26年からは、郵便で行っていた競技役員の競技会出欠調査を、ＨＰを窓口にしてネット上で行えるようにした。平成27年には、レース直後の競技結果をインターネットで閲覧できるようにした。手続の簡素化や利便性の向上とともに、ボランティアで業務に取り組んでいる連盟各位の負担軽減をめざしていきたい。

ＨＰを立ち上げ、競技会要項、連盟・競技会予定等を情報発信したことにより、競技役員資格、指導員資格の等への問い合わせが増えたという話も聞こえてきている。連盟関係者や競技者・水泳愛好者のみならず、潜在的に水泳に興味関心のある県内の方に対し窓口をひろげる役割を模索していきたい。

現在、情報の扱いについては過渡期であり、連盟の各部署で個々に行っている業務の中にはＩＴ利用により自動化できるもの、競技記録、各種の設定のように共有化、一元化を目指したいものがある。今後の連盟組織の充実に対応できるよう、将来的にそれらを集積するデータベースの構築も視野に入れていきたい。業務に関わる方の利便性と負担軽減が情報処理委員会の展望である。

競技記録処理用ＰＣ

オープンウォーター委員会

所 轄 事 項　1. ＯＷＳ競技会の企画と運営に関する事項
2. 強化訓練・講習会・研修会に関する事項
3. その他

役　　員　委員長　　青木　和子

沿　　革　世界におけるオープンウォーターの始まりは、1980年代に自然環境下での水泳大会に統一性を持たせ、一つの競技として確立しようと国際水泳連盟が動き出した。しかし世界各国で行われている大会は、それぞれ独自色を有しており一つにまとめる事が出来なかったが、オーストラリアで行われている大会を基本に、試行錯誤の結果、現在の原型が確立された。

日本における同競技は、1996年8月に「1996年福岡国際オープンウォータースイミング競技大会」が福岡で開催されたのが初めてのＦＩＮＡルール下での開催である。

その後、オープンウォーター（以下、ＯＷＳ）はヨーロッパ、アメリカ、オーストラリなど諸外国で盛んに行われ人気種目となり、特にイタリアでは競泳以上の力を入れる種目となった。そして1991年（平成3年）からは世界水泳選手権大会の正式種目に採用され、2008年（平成20年）北京からはオリンピック正式種目となった。

日本での正式参加は、1997年パンパシフィック選手権福岡大会である。その後、いくつかの世界レベルの大会に選手を派遣したものの、戦えるレベルには至らなかった。そこで日本でもスピードのある選手をという事で、競泳からの参加者を募った。そこで声がかかっていたのが、群馬県出身長距離選手貴田裕美選手（前橋国際大学出身：現　コナミスポーツクラブ）である。

活 動 報 告　貴田選手は、2010年競泳代表として出場したパンパシフィック選手権において、ＯＷＳ競技への出場も希望し、初めて国際大会に出場した。しかしながら経験不足、情報不足のために8位という結果に終わる。その後、貴田選手は本格的にＯＷＳに取り組むようになり、オーストラリアを中心に海外でのレースで経験を積んだ。そして、2012年ポルトガルで行われたロンドン五輪最終選考会で、13位となり、10カ国目で五輪出場権を獲得。日本で初めてのＯＷＳオリンピック選手が誕生した。ロンドン五輪では13位。東京五輪に向け、国体開催も決まり徐々に競技に参加する選手が増えていくことが予想される、また、インカレでの実施も目指され、選手の発掘・育成に力を入れている。また海での実施だけでなく、湖やボートレース会場など、開催が天候にあまり左右されないレース会場の設置なども視野に入れて動いている。

2015年ポルトガルW杯日本人初メダル獲得

2013年スペインでの世界選手権では、10km 13位、25km 8位（日本人初入賞）を果たす。2015年ポルトガルでのW杯においては、日本人初となるメダルを獲得、2位となった。

2020年の東京五輪が決定した事をうけて、国内では2016年岩手国体より正式に国体種目となり、東京五輪に向けた強化が動き始めている。国体では、5kmが正式種目となっており、今後はさらに普及・強化に力を入れていくことになっている。

群馬県水泳連盟としても2016年岩手国体より正式種目となるＯＷＳ競技の委員会設置を検討、平成28年度の総会にてＯＷＳ委員会の設置の了解を得る。

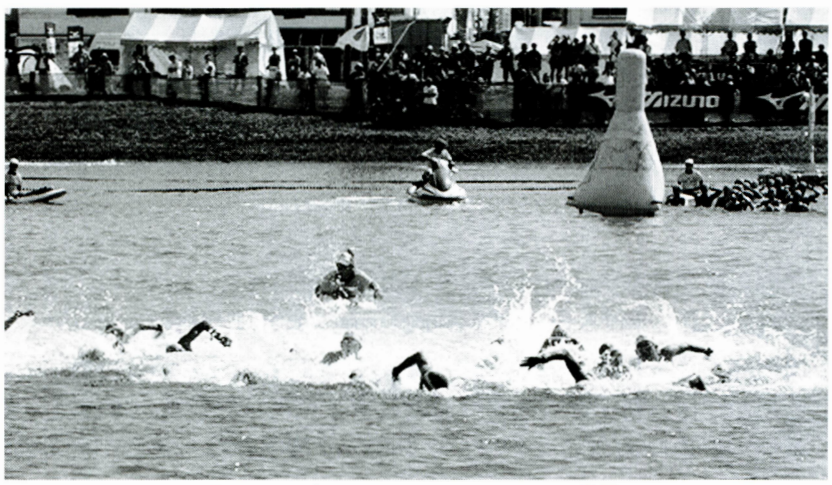
初代委員長に青木和子氏が就任する。

ＯＷＳ競技は海で実施されることが多く、海なし県である群馬県としては競技会運営に苦慮している。

平成27年4月関東春季水泳競技大会終了後県立敷島公園水泳場にて第1回ＯＷＳ競技が開催された。（参加者48名）

第2回ＯＷＳ競技は平成28年1月ディスタンス招待水泳競技会の中で実施。（参加者　男子6名・女子4名）

館山オープンウォータースイムレース風景



館山オープンウォータースイムレース風景

将来の展望

東京五輪に向け、国体開催も決まり徐々に競技に参加する選手が増えていくことが予想され、国体の他ではインカレでの実施も目指し、その中で選手の発掘・育成に力を入れています。また海での実施だけでなく、湖やボートレース会場など、開催が天候にあまり左右されないレース会場の設置なども視野に入れて動いています。

ジュニア部会

所轄事項　1. 競泳強化訓練の企画と運用に関する事項
　　2. 強化講習会・研修会・その他に関する事項を所管する

役員

委員長　山室　護（スウィン前橋スイミングスクール）
副委員長　富田　浩志（スウィン伊勢崎スイミングスクール・実行副委員長・会計）
　　海老澤友紀（ジェルスポーツクラブ高崎・実行委員長）
　　三吉　学（ナガイスイミングスクール・実行副委員長）
委員　高橋光太郎（スウィン吉井スイミングスクール・実行副委員長）
顧問　小茂田　猛（県央スイミングスクール）

沿革

群馬県水泳連盟創立70周年記念誌発刊に対し心よりお喜び申し上げます。

現在のジュニア委員会は平成16年に前身のスイミングクラブ部会、会長 井上　融（前橋イトマンスイミングスクール）加盟37クラブから組織変更が成され初代委員長に小茂田猛（群馬スイミングスクール）が就任しました。平成25年度の役員改選により現委員長 山室護（スウィン前橋スイミングスクール）が就任、加盟35クラブ2期目に入ったところです。

事業内容

群馬県内にあるスイミングクラブ相互の連絡を密にし、加盟クラブの健全な運営及び水泳を通して健全な青少年の育成に努め地域社会の発展と群馬県水泳界及び日本水泳界の向上に寄与しています。事業内容としては東毛・中毛・西毛の3地域で春秋冬に未公認のＢＣ級大会を主管校、会場持ち回りで実施し、年6大会の公認大会を前橋市大渡温水プールをお借りして開催しています。ＢＣ級大会は各地域の競技会運営能力の向上と初めて競技会に出るちびっ子達の経験の場として公認大会には無い25ｍ種目も取り入れ競泳人口の拡大と指導者の指導力向上に貢献しています。又、公認大会では全国ＪＯＣジュニアオリンピック・日本選手権等の標準記録突破に向けて学童から成人に至るまで日々の鍛錬を披露すべく凌ぎを削った戦いを繰り広げています。

活動報告

群馬県民待望のオリンピアンが誕生しました。

2008年の北京オリンピックでは内田　翔選手（群馬ＳＳ／法政大学）が800ｍフリーリレーに出場。従来のオリンピックとは違い午前中に決勝が行われるという体調管理の難しいものでしたが、日本新記録で決勝へ進み見事7位入賞を果たしました。又、2012年のオリンピック選考会で群馬県初の競泳女子オリンピック選手となった内田　美希選手（スウィン館林／関東学園大学付属高等学校）がロンドンオリンピックで400ｍフリーリレーに出場し見事7位入賞を果たしました。日本チームとしても戦後最多のメダル11個（銀3・銅8）を獲得したものの金メダルゼロという課題は残りましたが、素晴らしいオリンピックでした。

将来の展望

2016年リオオリンピック・2020年東京オリンピックに向けて指導者の質的向上を図る為、指導者養成講習・研修会を主管または主催し国内及び海外の競泳事情の収集・情報の公開や練習時、大会時の効率のよいエネルギー摂取方法を目的に栄養講習会などを企画、又、群馬県水泳連盟の主管する国内、海外での強化合宿等で泳力や技術の向上を計り2012年に続きリオ・東京で活躍するオリンピアンの育成に委員会一丸となって取り組んで行くと共に少子化が進む中、競泳人口の維持・増加を目指し加盟クラブと力を併せながらジュニア委員会の発展に尽くしていきたいと存じます。

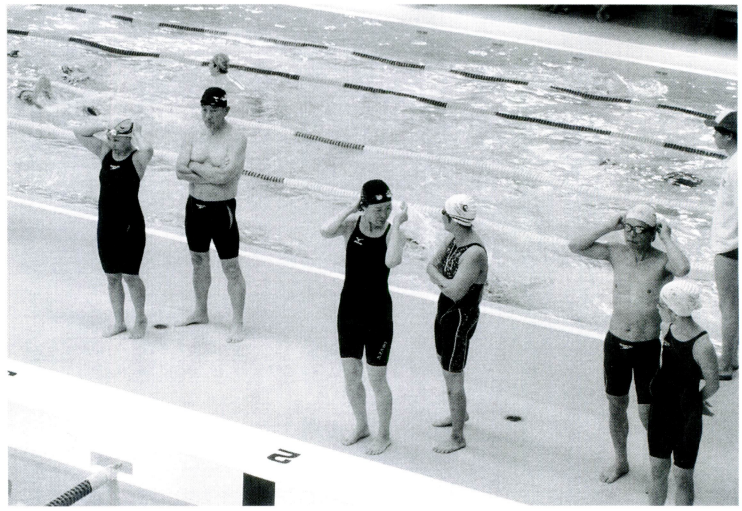
以下、全国ＪＯＣジュニアオリンピックでの優勝者氏名・チームを掲載します。

【2007年度】　第30回全国ＪＯＣジュニアオリンピック夏季水泳競技大会					
200m個人メドレー	天田　雄大	ジェル高崎	小学４年	2:30.27	
200mメドレーリレー	イトマン高崎	西山・齋藤・佐藤・清水		2:16.99	
50m自由形	内田　美希	イトマン館林	中学１年	26.97	
50mバタフライ	内田　美希	イトマン館林	中学１年	28.83	
200m背泳ぎ	福田　智代	群馬藤岡ＳＳ	高校３年	2:10.87	
【2007年度】　第30回全国ＪＯＣジュニアオリンピック春季水泳競技大会					
50m自由形	天田　雄大	ジェル高崎	小学４年	27.52	
200m個人メドレー	天田　雄大	ジェル高崎	小学４年	2:20.17	
50mバタフライ	井田　悠斗	スウィンあざみ	小学４年	30.54	
50m自由形	内田　美希	スウィン館林	中学１年	25.81	
100m自由形	内田　美希	スウィン館林	中学１年	56.65	
200m自由形	坂上　　梢	スウィン館林	高校３年	1:59.74	
【2008年度】　第31回全国ＪＯＣジュニアオリンピック夏季水泳競技大会					
50m背泳ぎ	天田　雄大	ジェル高崎	小学５年	31.67	
50mバタフライ	天田　雄大	ジェル高崎	小学５年	29.62	
200m個人メドレー	天田　雄大	ジェル高崎	小学５年	2:20.93	
50m自由形	内田　美希	スウィン館林	中学２年	26.31	
200m平泳ぎ	須永風由子	スウィン高崎	中学２年	2:30.01	
200mメドレーリレー	スウィン館林	斎藤・上野・小池・小野田		2:16.59	
【2008年度】　第31回全国ＪＯＣジュニアオリンピック春季水泳競技大会					
50m背泳ぎ	三井　大地	スウィン太田	小学４年	31.22	
50m背泳ぎ	富澤　幸久	スウィン太田	小学６年	26.98	
100m背泳ぎ	富澤　幸久	スウィン太田	小学６年	1:00.48	
50m自由形	内田　美希	スウィン館林	中学２年	25.53	
100m自由形	内田　美希	スウィン館林	中学２年	54.71	短水路中学新
200m自由形	内田　美希	スウィン館林	中学２年	1:58.61	短水路中学新
400m自由形	池田　　翔	群馬渋川ＳＳ	高校２年	3:45.33	短水路高校新
【2009年度】　第32回全国ＪＯＣジュニアオリンピック夏季水泳競技大会					
200m個人メドレー	天田　雄大	群馬ＳＳ	小学６年	2:11.58	学童新
50m自由形	内田　美希	スウィン館林	中学３年	25.84	
50m平泳ぎ	須永風由子	スウィン高崎	中学３年	32.41	
100m平泳ぎ	須永風由子	スウィン高崎	中学３年	1:08.78	中学新
【2009年度】　第32回全国ＪＯＣジュニアオリンピック春季水泳競技大会					
50mバタフライ	加藤　紫世	スウィンあざみ	小学４年	29.93	
100m自由形	天田　雄大	群馬ＳＳ	小学６年	53.94	
100mバタフライ	天田　雄大	群馬ＳＳ	小学６年	57.15	短水路学童新
200m個人メドレー	天田　雄大	群馬ＳＳ	小学６年	2:05.50	短水路学童新
200m平泳ぎ	髙橋　未希	スウィン伊勢崎	中学２年	2:25.33	
100m自由形	内田　美希	スウィン館林	中学３年	54.83	
【2010年度】　第33回全国ＪＯＣジュニアオリンピック夏季水泳競技大会					
100mバタフライ	天田　雄大	群馬ＳＳ	中学１年	58.72	
200m個人メドレー	天田　雄大	群馬ＳＳ	中学１年	2:08.82	
50m自由形	内田　美希	スウィン館林	高校１年	26.11	
【2010年度】　第33回全国ＪＯＣジュニアオリンピック春季水泳競技大会					
東日本大震災の影響により中止					
【2011年度】　第34回全国ＪＯＣジュニアオリンピック夏季水泳競技大会					
50m自由形	内田　美希	スウィン館林	高校２年	25.75	
【2011年度】　第34回全国ＪＯＣジュニアオリンピック春季水泳競技大会					
200mメドレーリレー	スウィン前橋	野田・内海・笠原・並木		1:58.03	
50m自由形	内田　美希	スウィン館林	高校２年	24.58	短水路日本新
【2012年度】　第35回全国ＪＯＣジュニアオリンピック夏季水泳競技大会					
200m個人メドレー	天田　雄大	群馬ＳＳ	中学３年	2:06.25	
400m個人メドレー	天田　雄大	群馬ＳＳ	中学３年	4:27.00	
50m自由形	内田　美希	スウィン館林	高校３年	25.67	
100m自由形	内田　美希	スウィン館林	高校３年	55.78	
【2012年度】　第35回全国ＪＯＣジュニアオリンピック春季水泳競技大会					
400m個人メドレー	谷口　憂羅	コナミ高崎	高校１年	4:34.46	
50m自由形	内田　美希	スウィン館林	高校３年	25.01	
100m自由形	内田　美希	スウィン館林	高校３年	53.81	
【2013年度】　第36回全国ＪＯＣジュニアオリンピック夏季水泳競技大会					
200mリレー	スウィン太田	渡部・脇坂・町田・宮本		1:58.28	
50m平泳ぎ	近藤 ちひろ	スウィン伊勢崎	中学１年	33.21	
100m平泳ぎ	近藤 ちひろ	スウィン伊勢崎	中学１年	1:10.98	
400m個人メドレー	谷口　憂羅	コナミ高崎	高校２年	4:44.33	
【2013年度】　第36回全国ＪＯＣジュニアオリンピック春季水泳競技大会					
200mリレー	スウィン太田	河内・関口・坊岡・宮本		1:58.36	
50mバタフライ	小池　詩音	スウィン館林	高校１年	27.17	
200m背泳ぎ	斎藤 ゆり子	スウィン館林	高校２年	2:07.22	
400m個人メドレー	谷口　憂羅	コナミ高崎	高校２年	4:31.53	
【2014年度】　第37回全国ＪＯＣジュニアオリンピック夏季水泳競技大会					
50m自由形	宮本　直輝	スウィン太田	小学５年	28.35	
50mバタフライ	宮本　直輝	スウィン太田	小学５年	30.43	
200m背泳ぎ	関口　真穂	スウィン前橋	中学２年	2:13.08	
50m自由形	岡野　圭穂	フレンドＳＣ	高校３年	26.39	
200m背泳ぎ	斎藤 ゆり子	スウィン館林	高校３年	2:13.12	
【2014年度】　第37回全国ＪＯＣジュニアオリンピック春季水泳競技大会					
100m背泳ぎ	斎藤 ゆり子	スウィン館林	高校３年	59.41	
200m背泳ぎ	斎藤 ゆり子	スウィン館林	高校３年	2:06.27	
【2015年度】　第38回全国ＪＯＣジュニアオリンピック夏季水泳競技大会					
200mリレー	スウィン太田	渡部・脇坂・町田・宮本		1:47.65	
200mメドレーリレー	スウィン太田	渡部・林・町田・宮本		1:58.45	
【2015年度】　第38回全国ＪＯＣジュニアオリンピック春季水泳競技大会					
200m背泳ぎ	関口　真穂	スウィン前橋	中学３年	2:08.07	

マスターズ部会

部会事務局　〒371-0026　前橋市大手町２－２－10
三山石油（株）方　　担当　今井正太郎　　ＴＥＬ 027－224-1171

所管事項　1. 群馬県内マスターズ水泳の普及・発展並びにマスターズ水泳競技に関する事項
2. 日本マスターズ水泳協会との連携
3. その他マスターズ水泳部門に関する諸事項



マスターズ水泳競技大会風景

役員

委員長	五十嵐　源一（県水連）	
副委員長	三吉　　学（スイミング部会）	海老澤友紀（スイミング部会）
	滋野　文夫（県水連副理事長）	
委員	喜多　正義（前橋）	猿谷　　宝（高崎）
	飯野　統世（桐生）	伊藤富士男（伊勢崎）
	豊原　宏明（太田）	山崎　一夫（沼田）
	相川　敏雄（館林）	田野崎謙一（渋川）
	大久保実成（富岡）	萩原　信行（藤岡）
	佐藤　　守（安中）	須藤　文治（県水連競技委員長）
	山口　友幸（伊勢崎）	永山　昌昭（県水連監事）
	関　　佳子（県水連）	藤原　紀子（県水連）
	今井正太郎（県水連）	小茂田　猛（県水連副理事長）
	萩原　文夫（スイミング部会）	加藤　由美（県水連）

沿革

・平成23年11月2日　日本水泳連盟と日本マスターズ水泳協会より「国内マスターズ水泳競技会の実態調査アンケート」の依頼があり、本県水泳連盟としては、マスターズ部会を設けて対応する旨回答

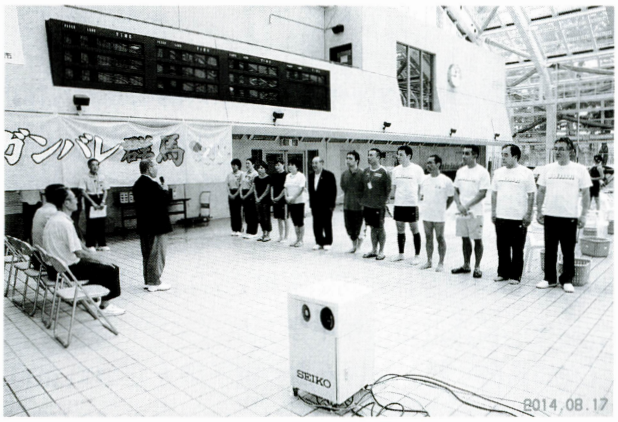
・平成24年1月28日　群馬県水泳連盟マスターズ部会発足準備会議開催（県営敷島）

・平成24年4月14日　群馬県水泳連盟　理事、評議員会で、マスターズ部会を平成25年度に設置を承認（上毛会館）

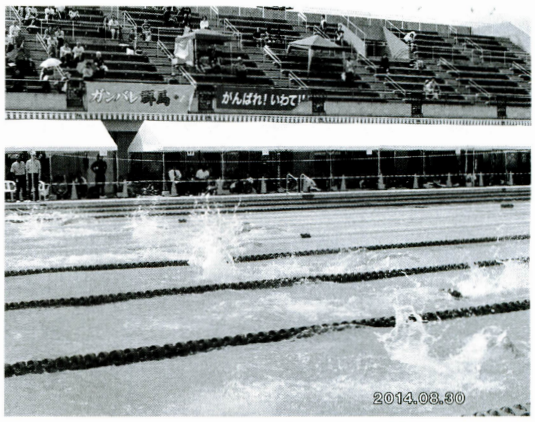
・平成25年3月24日　群馬県水泳連盟　理事、評議員会にて、規約の一部改正によりマスターズ部会を加える、部会発足　（パークホテル楽々園）

・平成26年8月30日　日本スポーツマスターズ２０１４（埼玉・川口）に群馬県選手団初参加（監督、選手計19名）、都道府県対抗団体10位（得点１０２）となる

・平成27年8月29日　日本スポーツマスターズ２０１５（石川・金沢）に群馬県選手団参加（監督、選手計１６名）、都道府県対抗団体１６位（得点８９）となる



日本スポーツマスターズ県選手団結団式



日本スポーツマスターズ大会風景

県内で行われている競技会

・群馬県年齢別長水路水泳競技大会（敷島公園まつり）　4月下旬　主催　群馬県

・大泉マスターズ水泳大会　4月下旬　主催　大泉水泳協会

・日本マスターズ水泳短水路大会（ダッシュ前橋会場）　5月下旬　主催　日本マスターズ水泳協会

・館林マスターズ水泳競技大会　6月中旬　主催　館林水泳協会

・ぐんまねんりんピック水泳競技大会　10月中旬　主催　群馬県

・桐生・みどり市地域スイマーズフェステバル　10月下旬　主催　桐生水泳協会

・群馬県年齢別短水路水泳競技大会　11月下旬　主催　群馬県水泳連盟

将来の展望

日本マスターズ水泳協会の公認競技会の開催を目指している、全国の開催状況や本県内の行事日程との調整、競技会場（宿泊、駐車）競技役員の確保、など課題は多いが研究して行きたい。

高体連水泳専門部委員会（高等学校部会）

役　員

委員長　藤本　剛（高崎商業高校）
副委員長　平田　明仁（安中総合高校・競泳）　清水　昭宏（前橋南高校・水球）
常任委員　諏訪部　晃（前橋商業高校・水球）　新井　淳（玉村高校・水球）
金子　雅人（前橋育英高校・競泳）　嶋田　英一（明和県央高校・強化）
安藤　学（共愛学園高校・競泳）　毒島　道代（高崎健大高崎・競泳）
前田　敏明（沼田高校・競泳）　小池　和也（伊勢崎工業高校・競泳）
轟木　重利（中央中等教育・競泳）　篠原　亮介（伊勢崎工業高校・競泳）
若藤　耕平（前橋市立前橋高校・競泳）
全国高等学校体育連盟水泳専門部部長　須藤　聡（太田フレックス高校）

《歴代委員長》
昭和22年～昭和44年　津田　貞（23年間）・昭和45年～昭和61年　栗原安雄（17年間）
昭和62年～平成5年　山田　稔（7年間）・平成6年～平成11年　猿谷　宝（6年間）
平成12年～平成26年　須藤　聡（15年間）・平成27年～　藤本　剛

沿　革

本専門部は、昭和25年度群馬県高等学校体育連盟発足時から群馬県高体連に所属している。全国大会の位置づけとしては、昭和37年度大会から（公財）日本水泳連盟が主催する「日本高等学校選手権水泳競技大会」に、（公財）全国高等学校体育連盟が共催する形で「全国高等学校総合体育大会」が発足し今日に至っている。

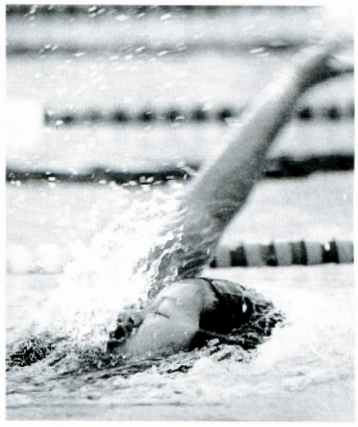
群馬県高体連水泳専門部の足跡は、群馬県高体連誌に昭和25年度の第1号から残されている。記念すべき第1号の記録には、高中の清水健選手が中学5位（ママ）ということが記載されている。第2号では清水健選手（高崎高校）が、全日本高校選手権大会100m自由形第3位に入賞したことが報告されている。以後は成績の項に譲るが、競泳は発足当初低迷した時期が続いた。初代委員長の津田貞氏の報告には「高校男子の不振には目を覆いたくなる状況。何か精神的に欠けたものがあるような気がする。」という記述が残っている。

このような時、昭和39年度東京オリンピックが開催された年に、前橋市で第32回日本高等学校選手権水泳競技大会が開催された。競泳・飛込が前橋市民プール。水球は、この年にオープンした敷島県営プールで行われた。さらにその5年後の昭和44年度に、第37回日本高等学校選手権水泳大会が、競泳・飛込が前橋市民プール、水球が敷島県営プールで行われた。しかし、群馬県の競技力は低迷したままであった。

転機が訪れたのが、昭和48年に前橋市に公立温水プールが作られたことである。そして、各地にスイミングスクールが開校され、徐々に競技水準が高まって行った。昭和48年度の高体連誌には、栗原安雄委員長の言として、利根商業高校のことが記載されていた。

「利根商水泳部は田中監督のもと、涙のにじむ猛練習に励み、男女とも県下にその名を輝かしめている。」

特記すべきこととして、インターハイ競泳競技に初優勝をもたらしたのが、昭和55年度平田美恵選手（佐藤学園2年）200m背泳ぎ優勝であった。


昭和55年　200m背泳ぎ
優勝　平田美恵

次に、男子の初優勝をもたらしたのが、平成9年度須藤秀之選手（前橋南3年）100m平泳ぎ優勝・200m平泳ぎ優勝の2

種目制覇であった。猿谷宝委員長は高体連誌に、「全国高校の男子優勝は、長い群馬の競泳の歴史で初の快挙である」と紹介した。

平成９年　100ｍ平泳ぎ優勝　須藤秀之
上毛新聞社８月21日掲載

この後、貴田裕美選手（高崎北）400ｍ自由形・800ｍ自由形、渡邉梢選手（渋川女子）100ｍバタフライ・200ｍバタフライ、内田翔選手（高崎商業）200ｍ自由形（日本高校新記録）・400ｍ自由形、福田智代選手（藤岡中央）100ｍ背泳ぎ・200ｍ背泳ぎ、内田美希選手（関東学園）50ｍ自由形・100ｍ自由形。計７名がインターハイで優勝。

また、オリンピック選手としては清水健選手（ヘルシンキオリンピック、800ｍリレー補員）、内田翔選手（北京オリンピック、800ｍリレー７位）、貴田裕美選手（ロンドンオリンピック、ＯＷＳ）、内田美希選手（ロンドンオリンピック、400ｍリレー）の４名が挙げられる。

水球競技は、44総体を期に田島正監督のもと、前橋商業高校に水球部ができた。昭和44年度全国高校総体に初参加した後、昭和48年度に全国高校総体初優勝を飾り、その後、全国高校総体優勝10回を数える屈指の強豪校となった。なお、優勝回数10回は全国１位である。

飛込競技は、群馬国体を期に発足した。当時は前橋市民プールで練習を行い、県高校総体に参加したのは昭和56年度からである。その後、グリーンドーム建設にあたり、市民プールが取り壊され練習会場がなくなり、野村孝路監督を中心に県外の施設を借りながら、苦労を重ねて強化を行った。平成７年度に現在の県立敷島公園水泳場が完成し、練習の拠点ができた。それ以後、平成11年度からの活躍は全国に名を轟かせた。

現在の高体連水泳専門部の主催大会は５大会である。（群馬県高等学校選手権水泳競技大会・群馬県高等学校総合体育大会・群馬県高等学校新人水泳競技大会（競泳・水球）・関東高等学校選抜水球競技大会群馬県予選会）これらの大会を、群馬県水泳連盟のご協力を頂きながら運営している。

将来の展望

平成18年度に全国高等学校体育連盟研究発表大会において、須藤聡委員長が報告を行った。その中から一部を引用したい。「群馬県の近年の好成績は、競泳・飛込・水球の三部門がそれぞれに全国大会で活躍しているからである。また、それを支えるのはエイジグループからの一貫指導であるといえる。競泳はスイミングスクール、飛込は群馬ダイビングクラブ、水球は群馬ジュニア水球クラブといった形で指導を行っている。」今後も、競泳・飛込・水球が一体となって強化を図るためにも、群馬県水泳連盟と協力しながら、ジュニアグループを支える指導者の皆さんと協力し、力を合わせて群馬県の水泳競技力の発展に力を合わせて行きたい。

最後に、群馬県の水泳競技が何故強くなったのかを、山田稔副会長に尋ねた時の言葉を載せて本報告を閉じたい。

「群馬の水泳は弱かったからである。」

〈高体連水泳専門部　活動報告〉

(1)　**団体の部**（インターハイに限る）

《水球》前橋商業高校　優勝 10 回

優勝 10 回（S48・58・61・62・63・H1・15・18・19・20）

2 位　6 回（S59・H5・7・8・10・21）

3 位　5 回（S57・H9・17・25・26）

《飛込》前橋育英高校

男子優勝　1 回（H19）、　　2 位　2 回（H11・15）

女子優勝　2 回（H11・12）、2 位　1 回（H20）

前橋西高校　　女子　3 位　1 回（H13）

高崎経済大附属高校　　女子　3 位　1 回（H21）

昭和 48 年　前商インターハイ初優勝

(2)　**個人の部**（平成 18 ～ 27 年度は県水連競泳委員会に掲載）

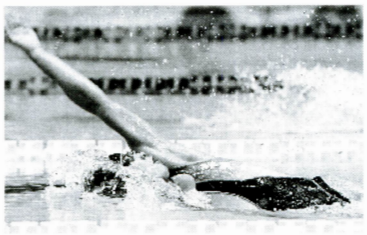
《競泳》（インターハイ入賞は平成 2 年度までは 6 位。平成 3 年度からは 8 位入賞となる。本資料は平成 3 年度以降は 3 位までの記載とする。学年がないものは高体連誌に記載がなかったもの。）

昭和 26 年度	清水　健（高崎）	100m 自由形	3 位			
昭和 32 年度	定方　充（伊勢崎商業）	100m 自由形	5 位			
昭和 53 年度	平田　明仁（中央 2 年）	1500m 自由形	4 位			
昭和 54 年度	平田　明仁（中央 3 年）	1500m 自由形	2 位			
	嶋田　英一（高商 2 年）	1500m 自由形	5 位			
昭和 55 年度	嶋田　英一（高商 3 年）	1500m 自由形	5 位			
	平田　美恵（佐藤学園 2 年）	200m 背泳ぎ	優勝・	200m 個人メドレー	2 位	
昭和 56 年度	宮澤　和恵（高市女 1 年）	100m 背泳ぎ	4 位・	200m 背泳ぎ	3 位	
昭和 57 年度	宮澤　和恵（高市女 2 年）	100m 背泳ぎ	2 位・	200m 背泳ぎ	4 位	
昭和 58 年度	細谷　知花（高崎女子 1 年）	100m 自由形	5 位・	200m 自由形	6 位	
	宮澤　和恵（高市女 3 年）	100m 背泳ぎ	2 位・	200m 背泳ぎ	2 位	
昭和 59 年度	茂木麻里子（佐藤学園 1 年）	200m 個人メドレー	3 位・	400m 個人メドレー	2 位	
昭和 60 年度	小島　拓朗（中央 2 年）	200m 背泳ぎ	6 位			
	茂木麻里子（佐藤学園 2 年）	200m 個人メドレー	3 位・	400m 個人メドレー	2 位	
	代田　理恵（前橋女子 1 年）	100m 平泳ぎ	3 位・	200m 平泳ぎ	2 位	
昭和 61 年度	小島　拓朗（中央 3 年）	200m 背泳ぎ	5 位			
	茂木麻里子（佐藤学園 3 年）	200m 個人メドレー	4 位・	400m 個人メドレー	3 位	
	代田　理恵（前橋女子 2 年）	200m 平泳ぎ	6 位			
昭和 62 年度	農大二高男子 400m リレー（藤本剛・岩丸尚樹・鈴木修一・竹之内卓）		5 位			
	代田　理恵（前橋女子 3 年）	100m 平泳ぎ	3 位			
		200m 平泳ぎ	2 位			
昭和 63 年度	竹之内　卓（農大二高 2 年）	100m 自由形	2 位			
	茅野　洋美（桐生商業 1 年）	800m 自由形	2 位			
	池田智加子（共愛学園 1 年）	200m 背泳ぎ	6 位			
平成 元 年度	竹之内　卓（農大二高 3 年）	100m 自由形	2 位			
	金子　尚弘（前橋育英 3 年）	400m 自由形	4 位			
	星野ともみ（利根商業 2 年）	100m 平泳ぎ	6 位			
	鈴木　裕子（農大二高 3 年）	200m 平泳ぎ	5 位			
	池田智加子（共愛学園 2 年）	100m 背泳ぎ	6 位			
平成 2 年度	日向　将一（前橋育英 1 年）	100m 背泳ぎ	6 位			
※平成 3 年度以降は 3 位までを掲載。						
平成 3 年度	日向　将一（前橋育英 2 年）	100m 背泳ぎ	2 位・	200m 背泳ぎ	3 位	
					◎前橋育英高校　男子総合 7 位	
平成 4 年度	日向　将一（前橋育英 3 年）	100m 背泳ぎ	2 位・	200m 背泳ぎ	3 位	
	大久保実成（前橋育英 2 年）	400m 自由形	2 位・	1500m 自由形	3 位	
					◎前橋育英高校　男子総合 6 位	
平成 5 年度	大久保実成（前橋育英 3 年）	400m 自由形	3 位・	1500m 自由形	3 位	
平成 6 年度	高見澤道代（前橋育英 1 年）	50m 自由形	3 位			
平成 7 年度	高見澤道代（前橋育英 2 年）	50m 自由形	3 位・	100m 自由形	3 位	
平成 8 年度	須藤　秀之（前橋南 2 年）	100m 平泳ぎ	2 位			
	高見澤道代（前橋育英 3 年）	50m 自由形	2 位・	100m 自由形	2 位	
平成 9 年度	須藤　秀之（前橋南 3 年）	100m 平泳ぎ	優勝・	200m 平泳ぎ	優勝	
平成 12 年度	野辺のぞみ（前橋女子 3 年）	100m 背泳ぎ	2 位			
	江田　香織（太田女子 3 年）	400m 個人メドレー	3 位			
平成 13 年度	貴田　裕美（高崎北 1 年）	400m 自由形	3 位・	800m 自由形	優勝	

平成 12 年　フラッグスタッフ合宿
（8 名の選手がインターハイ入賞）

平成 14 年度	貴田　裕美（高崎北 2 年）	400m 自由形	優勝・	800m 自由形	優勝
	渡邉　　梢（渋川女子 1 年）	100m バタフライ	優勝・	200m バタフライ	2 位
平成 15 年度	内田　　翔（高崎商業 1 年）	200m 自由形	3 位・	400m 自由形	3 位
	貴田　裕美（高崎北 3 年）	400m 自由形	優勝		
		800m 自由形	2 位		
	渡邉　　梢（渋川女子 2 年）	100m バタフライ	2 位		
	新井ゆかり（共愛学園 1 年）	200m 個人メドレー	3 位		
平成 16 年度	内田　　翔（高崎商業 2 年）	200m 自由形	優勝		
		400m 自由形	優勝		
	吉井　啓介（高崎東 3 年）	400m 個人メドレー	3 位		
	渡邉　　梢（渋川女子 3 年）	100m バタフライ	優勝		
		200m バタフライ	優勝		
平成 17 年度	内田　　翔（高崎商業 3 年）	200m 自由形	優勝		
		1：48.94（日本高校新記録）			
		400m 自由形	優勝		
		高崎商業高校　男子総合	8 位		
	湯本　　杏（共愛学園 3 年）	50m 自由形	3 位		
	福田　智代（藤岡中央 1 年）	100m 背泳ぎ	優勝		
		200m 背泳ぎ	優勝		
	須藤　ゆい（共愛学園 2 年）	200m 背泳ぎ	3 位		

平成 16 年　100m バタフライ優勝
渡邉　　梢

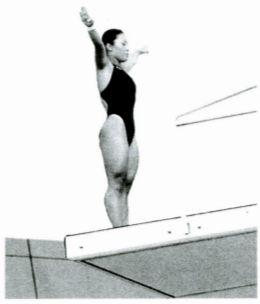


（上毛新聞社　提供）

平成 17 年　200m 背泳ぎ優勝
福田　智代

《飛込》（インターハイ入賞は、平成 2 年度までは 6 位入賞。
平成 3 年度からは 8 位入賞。）

平成 元 年度	丸山真貴子（群女 3 年）	飛板飛込	4 位
平成 9 年度	毒島　泰士（前橋育英 1 年）	高飛込	8 位
平成 10 年度	毒島　泰士（前橋育英 2 年）	高飛込	3 位
		飛板飛込	4 位
	片平　真希（前橋育英 1 年）	飛板飛込	8 位
平成 11 年度	毒島　泰士（前橋育英 3 年）	高飛込	2 位
		飛板飛込	4 位
	片平　真希（前橋育英 2 年）	高飛込	優勝
		飛板飛込	2 位
	岸　美奈子（前橋育英 2 年）	高飛込	7 位
		飛板飛込	6 位
平成 12 年度	須田　俊介（利根商業 2 年）	高飛込	7 位
	片平　真希（前橋育英 3 年）	高飛込	3 位・飛板飛込　4 位
	岸　美奈子（前橋育英 3 年）	高飛込	4 位・飛板飛込　8 位
	新井　　繭（前橋西 2 年）	飛板飛込	5 位
平成 13 年度	新井　　繭（前橋西 3 年）	高飛込	6 位・飛板飛込　3 位
平成 14 年度	須田　恭介（前橋育英 2 年）	高飛込	7 位・飛板飛込　7 位
平成 15 年度	須田　恭介（前橋育英 3 年）	高飛込	2 位・飛板飛込　4 位
	狩野　友昭（県央 3 年）	高飛込	6 位
平成 16 年度	倉澤　　歩（前橋女子 1 年）	高飛込	3 位・飛板飛込　8 位
平成 17 年度	岡部　　優（前橋育英 3 年）	高飛込	5 位
	倉澤　　歩（前橋女子 1 年）	高飛込	5 位・飛板飛込　4 位
平成 18 年度	田中紀美子（前橋育英 1 年）	高飛込	5 位・飛板飛込　5 位
平成 19 年度	村上　和基（前橋育英 2 年）	高飛込	優勝
		飛板飛込	優勝
	田中紀美子（前橋育英 2 年）	高飛込	8 位
		飛板飛込	5 位
	富山香奈子（高経附 1 年）	飛板飛込	5 位
平成 20 年度	田中紀美子（前橋育英 3 年）	高飛込	3 位
		飛板飛込	3 位
	富山香奈子（高経附 2 年）	飛板飛込	2 位
平成 21 年度	富山香奈子（高経附 3 年）	高飛込	6 位
		飛板飛込	3 位
	近藤　愛彩（中央中等 2 年）	高飛込	8 位
平成 22 年度	近藤　愛彩（中央中等 3 年）	高飛込	6 位
平成 24 年度	後藤　福寿（前橋育英 3 年）	飛板飛込	8 位



平成 11 年　高飛込優勝
片平　真希

平成 11 年　飛込女子
前橋育英総合優勝

平成 19 年　飛板飛込優勝
村上　和基

群馬県中体連水泳部（中学校部会）

所 轄 事 項　1. 中体連主催競技会の企画と運営に関する事項
　　2. その他

役　員（平成27年度）

部　長	高田　明彦（部長校長・藤岡市立北中学校）
委 員 長	古瀬　　衛（委員長・邑楽町立邑楽南中学校）
副委員長	犬塚　　均（副委員長・伊勢崎市立第二中学校・記録）
	高橋　睦聖（副委員長・前橋市立箱田中学校・庶務）
強化委員長	久保田雅彦（強化委員長・伊勢崎市立四ツ葉学園・強化）

沿　革

大会の運営面では、群馬県水泳連盟をはじめ、各中学校の顧問の先生方、また、敷島公園水泳場関係者の方々のご理解とご協力により、充実した大会運営を行うことができた。平成19年度からは、ＷＥＢを利用しての大会エントリーや記録の処理を行うようになり、情報処理の重要性を感じました。平成20年度より、これまでタイム決勝で行っていた総合体育大会水泳競技大会を予選決勝方式に変更するなどの改善を行いました。平成23年度には、第35回関東中学校水泳競技大会を8月8日～10日までの3日間、群馬県で開催し、無事終了することができた。

選手強化の面では、この10年間で全国大会での優勝が、7種目ありました。表彰台にあがった数は、26種目ありました。その中には、ロンドンオリンピックに4×100ｍフリーリレーで出場した内田美希選手（当時は明和中）が優勝しています。

事業内容

1. 群馬県中学校春季選抜水泳競技大会の企画と運営
2. 群馬県中学校総合体育大会水泳競技大会の企画と運営
3. 群馬県中学校新人水泳競技大会の企画と運営
4. その他

活動報告

全国中学校水泳競技大会での主な成績

◎平成18年度第46回大会（高知県：くろしおアリーナ）

池田　　翔（渋川市立北中学校3年）
・200ｍ自　優勝　1分53秒96（大会新）・400ｍ自　優勝　4分01秒09（大会新）
斉藤　拓之（高崎市立第一中学校3年）
・200ｍ個メ　2位　2分08秒38（大会新）

◎平成19年度第47回大会（岩手県：盛岡市立総合プール）

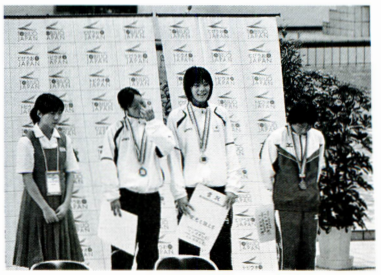
正田　達成（太田市立綿打中学校3年）
・200ｍ個メ　優勝　2分07秒70　・400ｍ個メ　2位　4分32秒89

◎平成20年度第48回大会（新潟県：ダイエープロビスフェニックスプール）

赤井　愛美（藤岡市立北中学校3年）
・200ｍ自　3位　2分03秒82（県中学新）

◎平成21年度第49回大会（福岡県：福岡県立総合プール）

内田　美希（明和町立明和中学校3年）
・50ｍ自　優勝　25秒77（大会新・県新記録）
・100ｍ自　2位　57秒05



（写真：50ｍ自由形優勝・内田美希）▶

◎平成 22 年度第 50 回大会（広島県：広島市ビックウェーブ）

浮島　直登（前橋市立東中学校３年）

・200 mバタ　優勝　２分 02 秒 96（県中学新）

・100 mバタ　２位　56 秒 26（県中学新）

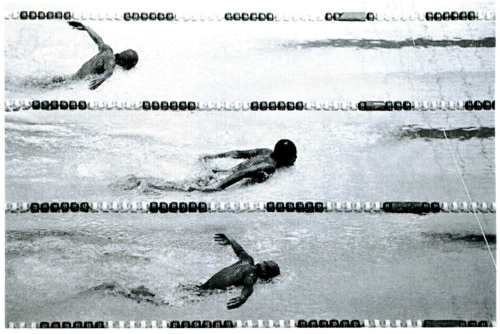
天田　雄大（高崎市立佐野中学校１年）

・400 m個メ　３位　４分 29 秒 93

高橋　未希（伊勢崎市立第二中学校３年）

・100 m平　３位　１分 11 秒 55

（写真：200 mバタフライ優勝・浮島直登）▶



◎平成 23 年度第 51 回大会（大阪府：なみはやドーム）

天田　雄大（高崎市立佐野中学校２年）

・400 m個メ　２位　４分 26 秒 93（県中学新）・200 m個メ　３位　２分 08 秒 04

◎平成 24 年度第 52 回大会

（栃木県：栃木県立温水プール館）

天田　雄大（高崎市立佐野中学校３年）

・400 m個メ　優勝　４分 25 秒 07（県中学新）

・200 m個メ　２位　２分 06 秒 90（県中学新）

◀（写真：400m個人メドレー優勝・天田雄大）

◎平成 25 年度第 53 回大会（静岡県：静岡県立水泳場）

高橋　洸輝（前橋市立第六中学校２年）

・1500 m自　３位　16 分 13 秒 24

植木　あかり（共愛学園中学校２年）

・200 m平　２位　２分 29 秒 66

関口　真穂（前橋市立第三中学校１年）

・100 m背　３位　１分 03 秒 33

松村み・植木・藤倉・松村ひ（共愛学園中学校）

・4 × 100 mメドレーリレー　３位　４分 27 秒 83

（写真：女子メドレーリレー・共愛学園）

◎平成 26 年度第 54 回大会（高知県：くろしおアリーナ）

高橋　洸輝（前橋市立第六中学校３年）

・1500 m自　優勝　15 分 47 秒 89（県中学新）

野田　瑛太（群馬大学附属中学校３年）

・400 m個メ　３位　４分 29 秒 11

稲沢　ひなこ（高崎市立矢中中学校３年）

・50 m自　３位　26 秒 51

◀（写真：1500m自由形優勝・高橋洸輝）

◎平成 27 年度第 55 回大会（秋田県：秋田県立総合プール）

関口　真穂（前橋市立第三中学校３年）

・200 m背　３位　２分 13 秒 98

将来の展望

大会運営では、開催期日等の問題点も生じているが、群馬県水泳連盟競技委員会のご協力を得ながら、生徒の思い出に残るような大会運営を目指していきたい。また、強化の面でも、群馬県水泳連盟ジュニア委員会や高体連の力をお借りしながら、全国大会で活躍できる選手が数多く育ってくることを期待している。

群馬県小学校体育研究会（小学校部会）

所轄事項

この会は、群馬県下小学校体育の振興を図ると供に会員相互の研修を深めることを目的とし、その目的を達成するために次の事業を行っている。

1. 小学校体育の振興に関する調査研究。
2. 実技講習会、研究発表会、授業研究会の開催。
3. 陸上記録会、水泳記録会及び各種スポーツ教室の開催。
4. 体育振興のために活動する他団体、機関との連携。
5. その他、この会の目的を達成するために必要な事業。

群馬県小体研「マーク」の由来

群馬県小学校体育研究会のマークは GEPRA

G：Gunma　E：Elementary school　P：Physical education　R：Research　A：Association

中心に上毛三山を表し、水泳と陸上で躍動する姿を描いたシンボルマークである。

役員（H 27 年）

会長	内藤　年伸（校長・前橋市立下川淵小学校）
副会長	小林　信二（校長・伊勢崎市立境島小学校・水泳委員会）
	金子　健司（校長・嬬恋村立西部小学校・陸上委員会）
	野口　勝禎（校長・桐生市立東小学校・研修委員会）
	並木　伸一（校長・富岡市立小野小学校・情報委員会）
水泳委員長	澤野　尚人（校長・榛東村立南小学校）
陸上委員長	高橋　　裕（校長・安中市立碓東小学校）
研修委員長	田野入康裕（校長・館林市立第八小学校）
情報委員長	矢尻　敏秋（校長・玉村町立芝根小学校）
事務局長	野村　　徹（教諭・前橋市立中川小学校）

沿革

群馬県小学校体育研究会は、昭和 37 年群馬県下小学校体育の振興を図ると共に会員相互の研修を深めることを目的に発足。群馬県内の小学校に勤務する校長及び教職員、並びにこの会に賛同するものをもって組織されている。

活動報告

【主な遍歴】

昭和 45 年	第 1 回群馬県小学校水泳教室記録会開催
昭和 46 年	第 1 回群馬県小学校陸上教室記録会開催
昭和 53 年	第 17 回全国学校体育研究大会開催
平成　2 年	第 34 回全国小学校体育科教育研究集会藤岡大会開催
平成 16 年	県教委、群馬大学、県小体研による体育授業プログラム「ボール運動編」作成。
平成 20 年	県教委、群馬大学、県小体研による体育授業プログラム「陸上運動編」作成。
平成 21 年	第 53 回全国小学校体育科教育研究集会伊香保大会開催
	第 1 回群馬県小学校体育学習研修会開催

水泳委員会活動

第1回の群馬県小学生水泳教室記録会は昭和45年に実施された。これにより以前から行われていた群馬県小学校水泳能力記録会と2つの記録会が実施されるようになった。この水泳能力記録会は現在の各郡市の大会に類似し、当時も5・6年生の男女の出場であったが、1人2種目の参加が可能であった。各学校で同一種目の参加人数に制限はなく、その代わり参加人数が多くなると予想される自由形や平泳ぎ等には基準タイムが設定され、その記録の突破者が記録会に出場できた。この記録会の会場は同一ではなく、1週間という期間の中で、各市町村を単位とし、実施可能な地域にて行われた。それぞれ各市町村の記録を持ち寄り、各種目30位までに賞状、5位までにトロフィーが与えられた。また各種目に上級・中級・初級の標準記録を定め、この突破者には日本水泳連盟より記録証が贈られた。以降、この群馬県小学生水泳能力記録会と平行して群馬県小学生水泳教室記録会が実施されるようになっていく。

県立敷島公園水泳場

一方、群馬県小学生水泳教室記録会は同一会場により記録会を実施した。会場は群馬県総合運動場内水泳場(現在の県立敷島公園水泳場)であった。5･6年生の男女が1人1種目の出場(リレーは除く)ができ、各郡市の代表1名と標準記録(全種目に設定)突破者が参加できた。リレーは代表1チームのみの参加であった。昭和48年の第3回大会には現在のように開会式の中に実技指導も加えられるようになった。当時の参加者はのべ460人。各種目上位6位までに賞状、3位までにメダルが与えられた。記録証は参加者全員に渡されるようになり、より現在の形に近づいた。

昭和51年の第6回大会では、4泳法にそれぞれ講師が付き、40分間の実技指導の時間が設定された。また前年度の県10位の記録を標準記録とし、記録が一昨年度より劣る場合は、一昨年の記録を用いて標準記録を設定している。

昭和55年の第10回大会より開会式の中に選手宣誓が加わり、平成元年の第19回大会では参加者の人数がのべ800人を越えた。平成4年までは県小学校水泳能力記録会と県小学校水泳教室記録会をまとめて報告書の作成を行っていたが、平成5年より県水泳教室記録会のみとなった。そして平成6年より現在の形である県水泳と県陸上教室記録会の報告書となった。平成8年度は敷島公園水泳場の工事のため、会場プールを前橋市民プールへ移しての開催となった。

将来の展望

現在、群馬県小学校水泳教室記録会は第45回を数える。たくさんの方々に支えられ、また記録会を重ねるごとに水泳技能も記録も伸び、子どもたちの基礎体力の向上に貢献してきている。まだ課題もあるが、一つひとつの記録会に真摯に向き合い、一人でも多くの子どもたちが水泳に親しめるよう質の高い記録会としていきたい。そのためにも今まで以上に関係者との協力連携を図っていきたい。

一般社団法人 日本身体障がい者水泳連盟

群馬障害者水泳協会

創　立　：　2000年1月1日
住　所　：　伊勢崎市下触町238-3

役　員　総括会長　：　柴田　安秀　　選手会長　：　尾高　広蔵

沿　革　県内身体障害者による水中活動の普及と競技力向上を目的として『群馬身体障害者水泳協会』を2000年1月1日に発足した。発足するにあたり群馬県立ふれあいスポーツプラザを中心に活動していた『群馬アシカクラブ』と群馬県立ゆうあいピック記念温水プールを中心に活動していた『かわうそ』を統合した。発足当初は身体障害者（肢体不自由、視覚障害、聴覚障害）を対象とした活動であったが、その後知的障害者、精神障害者からも一緒に水泳活動を行いたいとの要望により2014年『群馬障害者水泳協会』と名称を変更（名称より身体を外した。）

歴代会長　総括会長 柴田安秀（2000年～）、選手会長 第1代 町田芳明（2000～2008）、第2代 尾高広蔵（2009～）

活動報告等

主な国際大会歴（抜粋）

奈良　恵里加（障害クラス：S 6、前橋市在住）

年	大　会　名（開催地）／成　　績
1998	ＩＰＣ世界水泳選手権（ニュージーランド）／国際大会初出場
2000	パラリンピック（シドニー）/200 mリレー金（世界新）、100 m自由形4位入賞、400 m自由形6位入賞
2004	パラリンピック(アテネ)/200 mリレー金(世界新)、50 m自由形銅、100 m自由形銅、200 mメドレーリレー銅、400 m自由形5位入賞
2008	パラリンピック（北京）/50 m自由形6位入賞、100 m自由形6位入賞、400 m自由形8位入賞
2010	アジアパラ（広州）/100 m自由形銀、50 mバタフライ5位入賞、50 m自由形5位
2012	パラリンピック（ロンドン）／100 m自由形8位入賞

柴田　安秀（日本身体障がい者水泳連盟技術委員、前橋市在住）

年	大　会　名（開催地）	役　　職
1998	ＩＰＣ世界水泳選手権（ニュージーランド）	日本水泳選手団コーチ
1999	フェスピック（タイ）	日本選手団水泳コーチ
2000	パラリンピック（シドニー）	日本選手団水泳コーチ
2002	ＩＰＣ世界水泳選手権（アルゼンチン）	日本水泳選手団監督
2003	フェスピックユース（香港）	日本選手団水泳監督
2004	パラリンピック（アテネ）	日本選手団水泳コーチ
2006	フェスピック（マレーシア）	日本選手団水泳監督
2006/2007	パラワールドカップ（イギリス）	日本選手団水泳コーチ／監督

ジャパンパラ水泳競技大会成績（過去10年）

年	入　賞　者　：　成　績　☆印は大会新記録
2005	奈良恵里加：50m自由形金☆、100m自由形金
2006	奈良恵里加：50m自由形金☆、100m自由形金、400m自由形金
2007	奈良恵里加：50m自由形金☆、100m自由形金☆
2008	尾高　広蔵：400m自由形銀、100m平泳銀/奈良恵里加：50m自由形金、100m自由形金☆
2009	奈良恵里加：50m自由形金☆、100m自由形金
2010	尾高　広蔵：200m個人メドレー銀、100mバタ銅 奈良恵里加：50m自由形金、100m自由形金
2011	尾高　広蔵：200m個人メドレー金、100mバタフライ銀、100m平泳ぎ銀
2012	尾高　広蔵：100mバタフライ銀、100m平泳ぎ銀 奈良恵里加：50m自由形金、100m自由形金/関　すみ子：100m背泳ぎ銅
2013	尾高　広蔵：100mバタフライ金　/　奈良　恵里加：50m自由形金
2014	尾高　広蔵：100mバタフライ銀 奈良恵里加：50m自由形金、50mバタフライ銀
2015	尾高　広蔵：100mバタフライ銀

※『ジャパンパラ水泳競技大会』とは、国内最高峰の障害者の水泳競技大会

県内での障害者の水泳大会及び合宿実績

日本身体障害者水泳選手権大会1回、関東身体障害者水泳選手権大会2回、 長水路障害者水泳選手権大会1回、群馬県障害者スポーツ大会（毎年）、 パラリンピック事前合宿（シドニー前、アテネ前）、東日本普及合宿等

その他の活動

（一社）日本身体障がい者水泳連盟・（一社）日本知的障害者水泳連盟に登録し、各連盟が主催する地域大会、日本選手権、ジャパンパラ等に出場、パラリンピック等国際大会出場も視野に活動している。

障害者の水泳について

障害者の競泳

障害者の競泳は、障害の程度により区分又はクラス毎に競技すること、障害が故に一部競技規則を変更していることが健常者の競泳と大きな違いである。日本には、全国障害者スポーツ大会（全スポ）競技規則と国際パラリンピック委員会水泳競技部門（IPC-SW）競技規則の2つが存在する。毎年実施の群馬県大会は全スポ競技規則であり、開催の主な目的は、国民への障害の理解と障害者の社会参加の推進である。一方IPC-SW競技規則は、国際的に公平で公正となるようにクラス分け規則、障害特有の不利益を公平に審判するための競技規則がある。いずれの場合も原則はFINAの競技規則である。

今後の課題

障害者、特に肢体不自由者の競泳人口は少ない。絶対数が少ないので当然ではあるが障害者の競泳を知らない方もまだ多い。競技力向上、レベルアップの為にもより多くの障害者が活動できることが望ましい。今後の課題として、健常者の水泳に携わる多くの方々にも障害者の競泳の理解を図り、育成や指導の支援と協力いただき、練習できる施設と環境を整えることで障害者の競泳人口を増やしていきたい。